グリーンシャーク

ＧＳ１２２ＧＥ

取　扱　説　明　書

謹告　本機を取扱う場合は、事前に本取扱説明書を全部読んで十分理解をして機械の運転操作の練習を行い、運転操作に習熟した上で正しく作業を行って下さい。各種危険についても、本取扱説明書の注意事項を充分理解してから運転・調整または保守を行って下さい。守られなかった場合は、死亡または重傷事故を起こす恐れがあります。

読み終わった後は必ず大切に保管し、分からないことがあったときは、取り出して再読して下さい。なお、エンジン・バッテリにつきましては、同封の各々の取扱説明書をご熟読下さい。もし、説明書が損傷や紛失により読めなくなった場合、販売店により新しい取扱説明書を購入し、常に参照できるように保管して下さい。

株式会社 大　橋

21119010100
141225

まえがき

大橋チッパーシュレッダーをお買い上げいただき、ありがとうございます。

本機を快適かつ効果的に取扱いいただくためには、毎日の作業点検と定期的な点検整備が大事です。人間でいえば健康診断のようなもの、機械をいつも最良の状態にし、事故や故障を未然に防ぐことが大切です。日頃から義務として、点検を怠らないようにしましょう。

また、ちょっとした故障でも早期発見するよう心がけ、大きな故障にならないように整備して下さい。機械の調子が悪い時は、無理に使用せず、お買い上げいただいた販売店にお気軽にご連絡下さい。その際、『本機型式と機体番号』を合わせて、ご連絡下さい。『本機型式と機体番号』はフレーム後部のラベルに記載しています。

なお、品質・性能向上および、その他の事情で部品の変更を行うことがあります。その際、取扱説明書の内容および写真、イラストなどの一部が本機と一致しない場合がありますので、予めご了承下さい。

目　　次

危険防止のために …… 1

ラベルについて …… 3

本機の使用目的・主要諸元 …… 9

各部の名称 …… 10

運転を始める前に！ …… 11

始業点検 …… 11

上手に運転するには（1） …… 13

エンジンの始動のしかた …… 13

発進のしかた …… 15

停止のしかた …… 15

変速のしかた …… 16

旋回のしかた …… 16

トラックへの積み降ろしのしかた …… 17

ロータクラッチの入切のしかた …… 19

送りローラ操作のしかた …… 20

正送り非常停止のしかた …… 21

排出ダクトの固定と排出方向 …… 21

粉砕のしかた …… 22

上手に運転するには（2）　～ナイフの交換手順と注意事項～ …… 23

チッパーナイフの反転・交換 …… 23

受刃の反転・交換 …… 24

ナイフの調整 …… 25

シュレッダーナイフの取付 …… 26

スクリーンの取付 …… 27

粉砕作業の注意点 …… 28

ひっかかりの除去 …… 29

定期の点検・整備をするには …… 30

オイル交換 …… 30

パワーパック …… 31

油圧ホース …… 32

走行クラッチ …… 32

駐車ブレーキ …… 33

サイドクラッチ …… 34

ロータベルト …… 35

クローラ …… 36

バッテリ …… 37

エンジン …… 39

給油・注油するところ …… 42

締め付けするところ …… 44

作業後の手入れ／長期保管 …… 45

作業後の手入れ …… 45

長期保管 …… 46

注意 …… 46

付属工具一覧 …… 46

消耗部品一覧表 …… 47

こんなトラブルが起ったら …… 48

送り制御チェック項目一覧 …… 49

配線図 …… 50

万一の事故に備えて …… 51

お客様へ …… 52

使用手順書 …… 53

始業点検表 …… 55

危険防止のために

注　　意

1. この取扱説明書は、いつでも読めるように、紛失、汚損の恐れのない、すぐに取り出せる所に必ず保管して下さい。
2. この取扱説明書が損傷により読めなくなった場合、紛失した場合は販売店より新しく取扱説明書を購入し、常に参照できるように保管して下さい。
3. この取扱説明書で解説している機械を貸与する場合は、借りて作業をする者に、この取扱説明書を読ませ、十分な指示、訓練を行った後、この取扱説明書とともに機械を貸与して下さい。
4. 製品を譲渡する場合は、この取扱説明書を製品に添付して下さい。

⚠　**注　　意**

1．本機を運転する者は、本機の取扱説明書をよく読み理解してから運転すること。
2．取扱説明書が損傷や紛失により読めなくなった場合、販売店より新しい取扱説明書を購入し常に参照できるように保管すること。
3．ラベルが損傷やはがれて読めなくなった場合、販売店より新しいラベルを購入して貼り替えること。

1. この取扱説明書をよく読んで機械をよく知るようにして下さい。不馴れな機械を運転すると事故につながります。
2. 取扱説明書でいう機械の「右」及び「左」、「前」及び「後」はオペレータが機械の作業位置にいることを想定して意味しています。
3. 機械を子供に運転させないで下さい。また大人でも適切な訓練を受けずに運転させないで下さい。
4. 作業時にはヘルメット、安全靴、保護メガネ、防音保護具（耳栓）、保護手袋、長袖、長ズボンを着用して下さい。飲酒時や過労ぎみの時、及び病気で体調不良の時は、運転しないで下さい。
5. 運転は日中または十分な照明のあるときに限定して下さい。
6. 傾斜地での設置、作業は絶対しないで下さい。設置は平坦地にして下さい。
7. 部品が変形した状態、または部品が欠品になっている状態で、機械を絶対に運転しないで下さい。
8. 改造は一切してはいけません。
9. この機械を公道でけん引することはできません。
10. けん引をする場合は、けん引を行うに十分な駆動力と制動力を持った車両を使用して慎重に行って下さい。特に坂道等を下るときは、速度が増さないように慎重に下るようにして下さい。
11. ユニック等で本機をトラックなどへ積み降ろしを行う場合は、トラックを平坦なところに停車し、駐車ブレーキと車止めをして、バランスに気を付け転落しないように十分注意して下さい。
12. エンジンを始動させるときには必ず、オペレータはすべての駆動装置を切ってから行って下さい。
    (1) エンジンを始動させる前にエンジンの取扱説明書をよく読んでエンジンについて精通しておいて下さい。
    (2) 誰も人を付けないで機械を放置して置くときは、次のことを必ず行って下さい。
        ① ロータクラッチレバーを「切」位置にします。
        ② キーを外します。
13. 平坦で危険のないところで機械の操作の練習を行い、操作に習熟して下さい。
    (1) エンジンの始動、停止とスロットルレバーの調整
    (2) ロータクラッチの入切のしかた
    (3) 送りローラ操作のしかた
    (4) 正送り非常停止のしかた
    (5) 走行（前進・後進）、停止、旋回のしかた
    (6) 変速のしかた
14. 作業は二人以上で行い、単独では行わないようにして下さい
15. 投入作業は、１人にて行って下さい。材料の形状によっては、投入する際、材料が暴れたり、投入口から粉砕物の破片が飛び出してくることがありますので、投入口の正面に立たずに、脇に立って作業を行って下さい。
16. 作業時、エンジン停止直後のマフラおよびその周辺は、高温のため触れないよう十分注意して下さい。

17. 粉砕された材料は、排出ダクトより勢いよく排出されますので事故につながる可能性があります。作業にかかる前に、排出ダクトの排出方向を定め、ダクト固定ハンドルをしっかり締めてから作業を開始して下さい。
18. ホコリや塵がたちやすい場所での作業時は、作業前に、必ず作業場付近に散水してから作業して下さい。屋内で作業を行う場合は、ドアや窓を開け十分な換気を行って下さい。排気の一酸化炭素は猛毒です。
19. 作業中の点検はエンジンを停止し、回転部が完全に止まってから行って下さい。
20. 作業中は、各部点検カバー・窓は絶対に開けないで下さい。
21. フィードボックス・送りローラ取付部に直接触れないようにして下さい。
22. ひっかかって、きちんと下がらない場合は、角材・棒等で押して、解除して下さい。
23. 停止中、運転中にかかわらず、送りローラに触れないようにして下さい。
24. 作業終了後の点検の際は、必ずエンジンを停止し、ロータなどの回転部が完全に停止したことを確認してからエンジンのキーを外して行って下さい。
25. 整備を行う時は、エンジンを停止し、送りローラに挟まれないように注意して下さい。
26. 作業終了後は、本機各部の清掃・点検及び給油を十分行ってください。特に、エンジンのエアクリーナエレメントは、エンジントラブル防止のため、こまめに清掃して下さい。
27. 前が見にくいため、作業時は、周りの安全を十分確認の上、作業を行って下さい。
28. 機械を後進させるときは、後ろに何があるか先ず確認して下さい。
29. 機械の点検整備等をするときはキーを外してから行って下さい。
30. エンジンの点検、整備等をするときはキーを外してエンジンが十分冷めてから行って下さい。
31. 燃料は可燃性が高いので注意して扱って下さい。

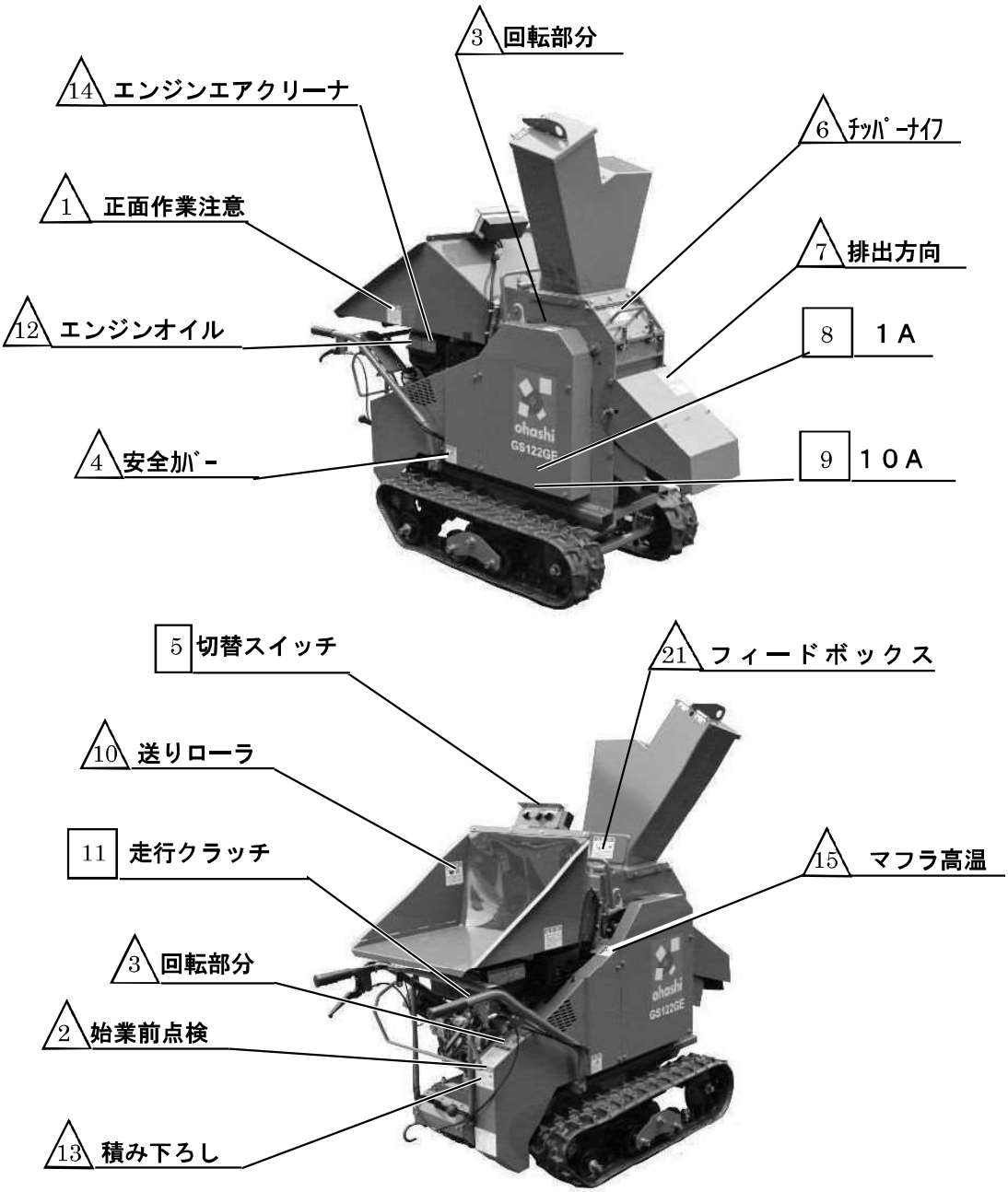
(1) 新しい清浄な燃料のみ使用して下さい。
(2) 給油は決められた燃料容器を使用し、この燃料容器の口はタンク注入口に挿入できるものでなければなりません。挿入できないものであれば、専用の給油ポンプを使用して下さい。
(3) 給油する際はエンジンを停止して、２分以上冷却してください。スパークプラグ、エンジン本体やエキゾーストパイプにガソリンをこぼさないよう特に注意してください。エンジン始動時の火花による引火や温度上昇による引火のおそれがあります。
(4) 燃料がこぼれた場合はきれいに拭き取ってよく乾かして下さい。
(5) 屋内でタンクに燃料を入れたりしないで下さい。
(6) 燃料を洗浄剤として使わないで下さい。
(7) 燃料を扱っているときはタバコを吸わないで下さい。
(8) 裸照明は絶対にしないで下さい。
(9) 裸火のある場所または火花を発生する装置の近くに燃料容器を保管しないで下さい。

32. 屋内に機械を保管するときはエンジンが冷めてから保管して下さい。必ずキーを外しておいて下さい。
33. ２人以上で整備をするときは声を掛け合い、けがのないよう十分に注意して行ってください。
34. エンジン回転中またはロータ回転中に排出側から手を入れるとロータに接触して引き込まれ、けがをする恐れがあります。
35. 移動するときは、クローラ内に粉砕物等を堆積させないで下さい。誘導輪とクローラの間に挟まった状態では、無理な回転がかかることになりミッション破損の原因となります。
36. 移動する時は、延長ガイドを上にたたんで下さい。

ラベルについて

機械には操作系などのラベルと「注意」「警告」「危険」の警告ラベルを貼付しています。使用前に各ラベルの位置を確認し各ラベルの意味を十分理解しておいてください。万一、ラベルが磨滅したり破損して読めなくなった場合や、はがれて紛失した場合は販売店より、新しくラベルを購入し特に、警告ラベルは「ラベルの位置」に指示してある個所に確実に貼り、他のラベルについても「ラベルの位置」を参照に貼って常にラベルが読める状態を維持して下さい。

ラベルの位置



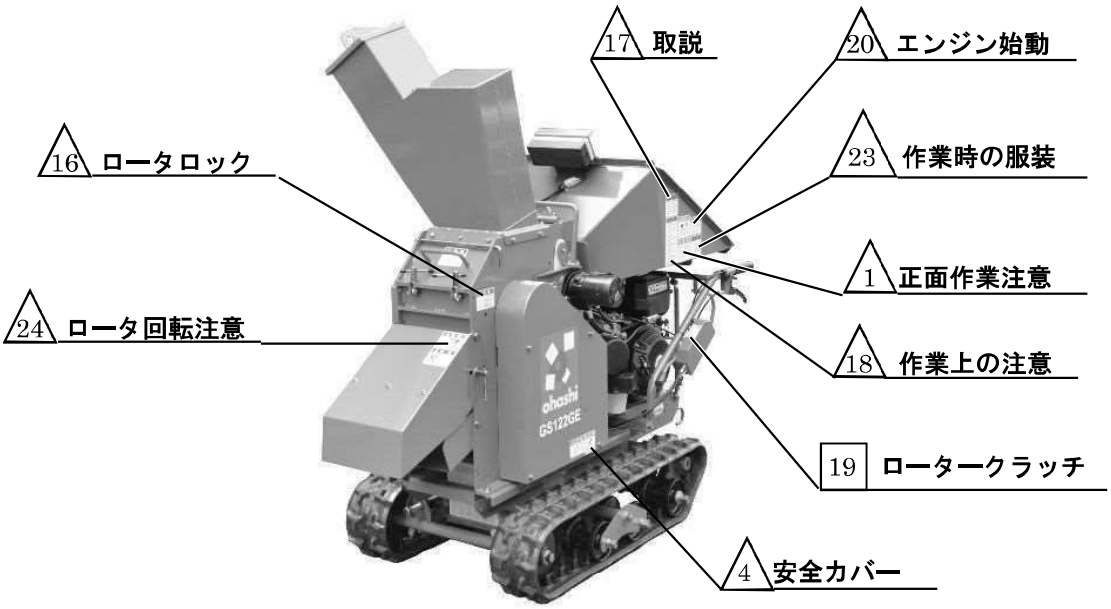
△は警告ラベルです

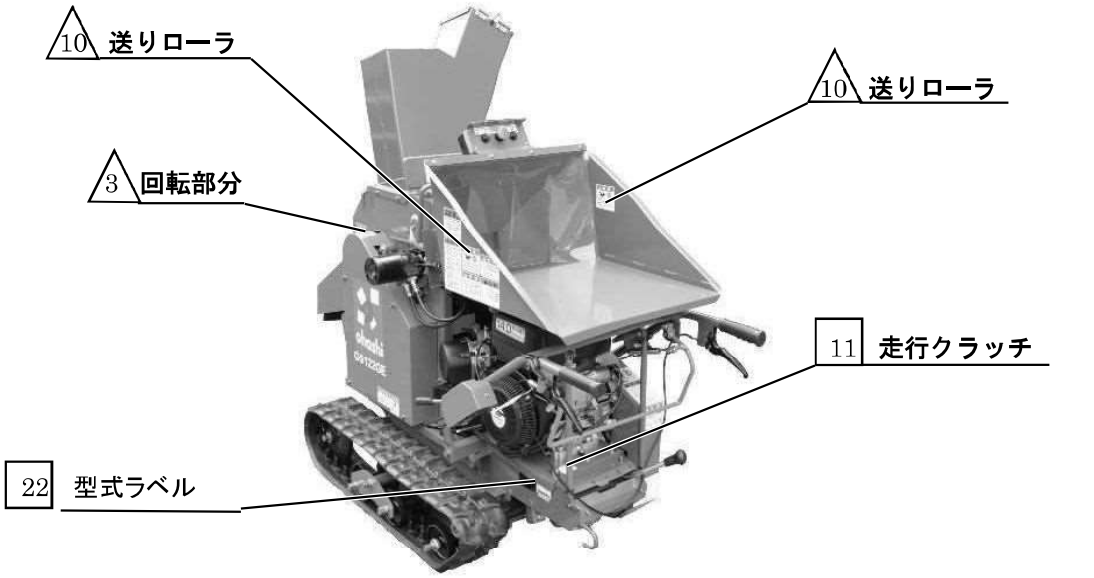
□は名称ラベルです

ラベルについて

機械には操作系などのラベルと「注意」「警告」「危険」の警告ラベルを貼付しています。使用前に各ラベルの位置を確認し各ラベルの意味を十分理解しておいてください。万一、ラベルが磨滅したり破損して読めなくなった場合や、はがれて紛失した場合は販売店より、新しくラベルを購入し特に、警告ラベルは「ラベルの位置」に指示してある個所に確実に貼り、他のラベルについても「ラベルの位置」を参照に貼って常にラベルが読める状態を維持して下さい。

ラベルの位置





△は警告ラベルです

□は名称ラベルです

1 正面作業注意

危　険

■材料を投入する際、材料が暴れたり、投入口から粉砕物の破片が飛び出してくることがありますので投入口の正面に立つのを避け脇に立って作業を行って下さい。

2 始業前点検

注　意

■エンジンを始業する前に下記の点検を行って下さい。

1．エンジンオイル量
2．エンジンエアクリーナーエレメントの汚れ
3．作動油タンクのオイル量
4．燃料タンクの油量
5．各部の油もれ
6．車体各部のボルト・ナットなどのゆるみ
　1）ローターハウジングカバー固定ナットのゆるみ
　2）チッパーナイフ固定ボルトのゆるみ
　3）シュレッダーナイフ軸のゆるみ
　4）排出ダクト固定ナットのゆるみ
7．ベルトの張り具合、磨耗やほつれ

3 回転部分

4 安全カバー

5 切替スイッチ

6 チッパーナイフ

7 排出方向

8 1A

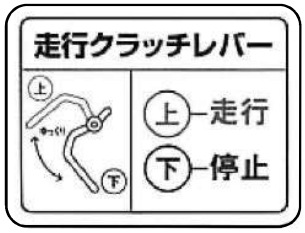
9 10A

1A

10A

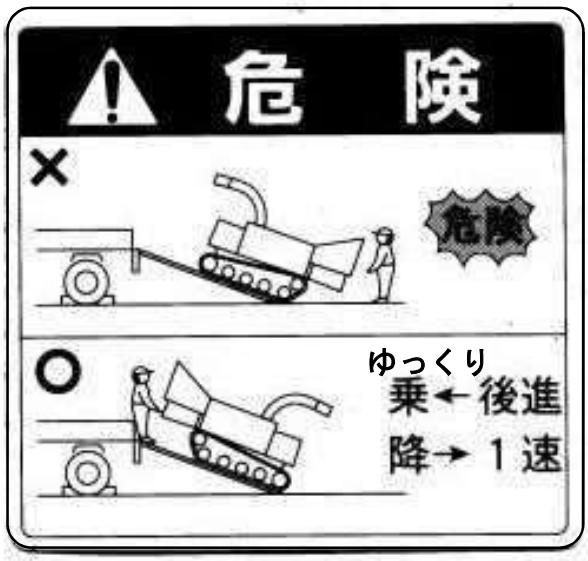
10 送りローラ

11 走行クラッチ



12 エンジンオイル

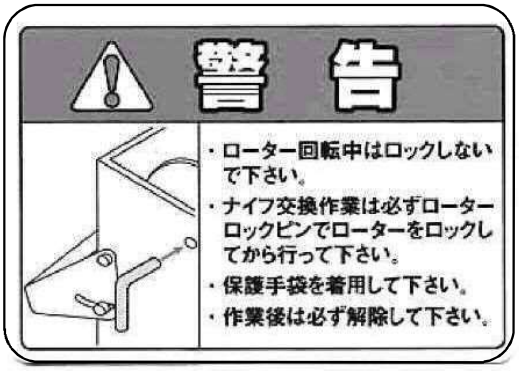
13 積み降ろし



14 エンジンエアクリーナ

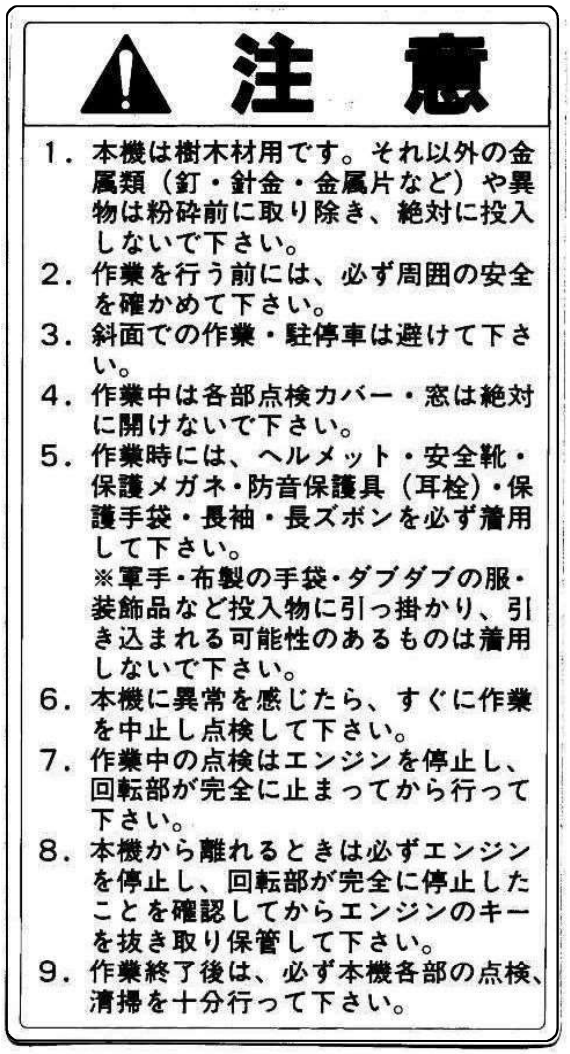
15 マフラ高温

16 ローターロック

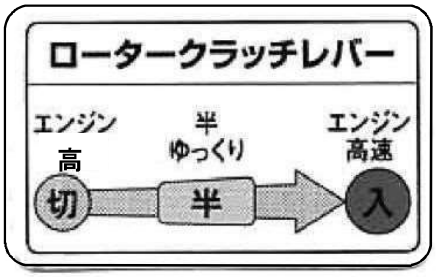


17 取扱説明書

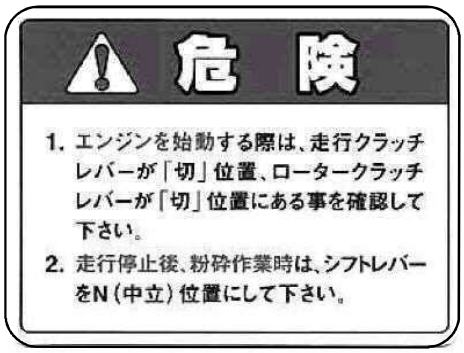
18 作業上の注意



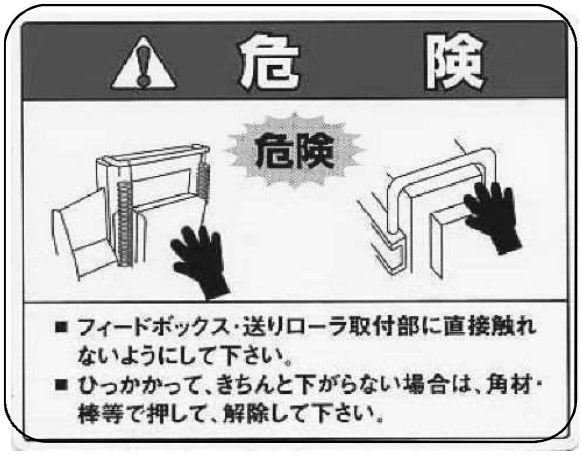
19 ロータークラッチ



20 エンジン始動

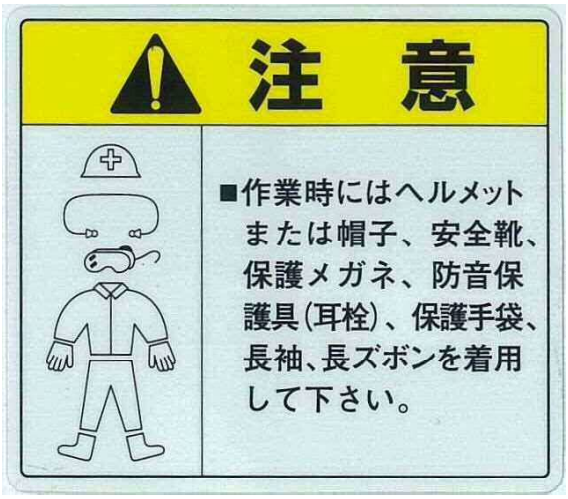


21 フィードボックス



22 型式ラベル

23 作業時の服装



24 ロータ回転注意

本機の使用目的

本機は、平坦地での使用を前提とし、塩ビ管および樹木材を粉砕、減容化する事を目的とした機械です。

土・砂・石・金属・ビン・樹脂・焼き物等は絶対に混入しないで下さい。

本機を使用目的以外に使用しないで下さい。

主　要　諸　元

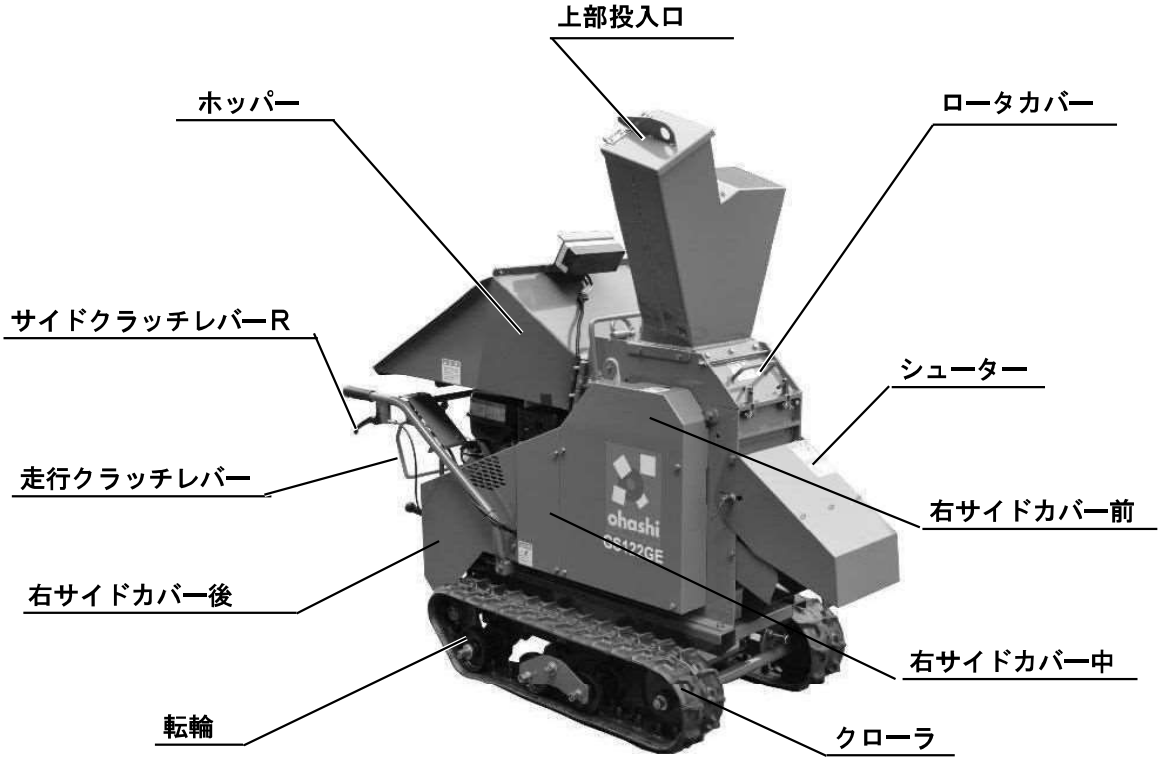
品　　名	塩ビ管粉砕機
型　　式	ＧＳ１２２ＧＥ
全長×全幅×全高	１６２０×７８５×１６００mm
重　　量	３５０ｋｇ
駆　動　方　式	ベルトクラッチ・Ｖベルト
処　理　径	最大　１２５mm(横部口：木質)、１６５mm(上部口：塩ビ管)
破　砕　刃	チッパーナイフ２枚・受刃
ホ　ッ　パ　口　径	５６０×３３０mm
送　り　装　置	油圧モータ方式（自動制御付・横部口投入時）
排　出　方　式	空気搬送式
ダ　ク　ト　高　さ	７２０mm
排　出　角　度	可変式
走　行　方　式	ゴムクローラ
走　行　速　度	Ｆ１速１．２　　Ｆ２速２．５　Ｒ１．４ｋｍ／ｈ
エ　ン　ジ　ン	ロビンＥＸ４０
最　大　出　力	１４（１０．３）ｐｓ（ｋＷ）
点　火　プ　ラ　グ	ＮＧＫ　ＢＲ　６ＨＳ
燃　　料	自動車用無鉛ガソリン（燃料タンク６．８ﾘｯﾄﾙ）

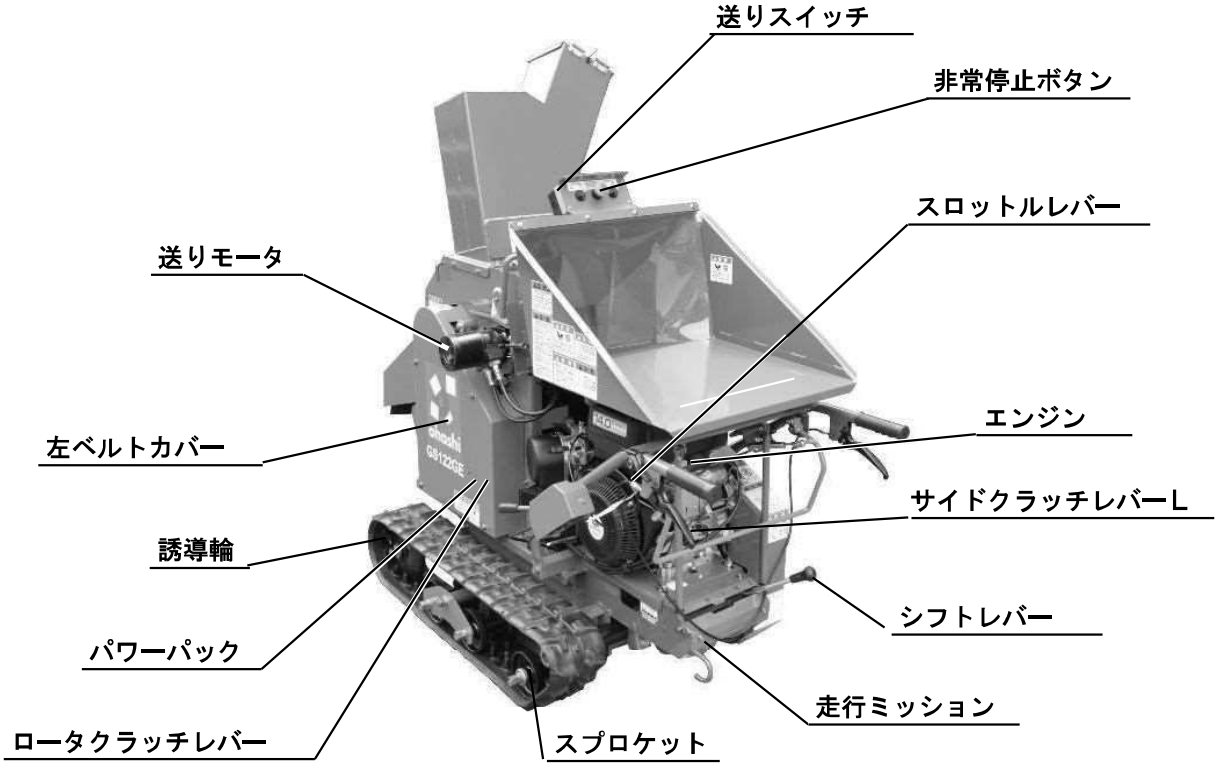
＊この仕様は改良などにより、予告なく変更することがあります。

尚エンジン、バッテリにつきましては、各取扱説明書をご覧ください。

各部の名称

機械を見ながら名称を確認下さい。





運転を始める前に

機械を調子よく保ち効率的に作業ができるように毎日の作業前には必ず点検・整備を行いましょう。

注 意	ケガや事故防止・燃料への引火防止のために、次のことを厳守して下さい。 1．点検をする時はロータクラッチレバーを**「切」**位置、シフトレバーを**ニュートラル**位置にし、駐車ブレーキをかけてから行って下さい。 2．本機は**樹木材用**です。それ以外の金属類（釘・針金・金属片・ロープ・ひも・土・砂・石・セメント・ビンなど）や異物は粉砕前に取り除き、絶対に投入しないで下さい。 3．作業を行う前には、必ず**周囲の安全**を確かめて下さい。（公園など、公共施設での作業の場合は、特に周囲の安全確認を徹底して下さい。 4．**斜面**での作業・駐停車は避けて下さい。 5．作業中は**各部点検カバー・窓**は絶対に開けないで下さい。 6．作業時には、**ヘルメット・安全靴・保護メガネ・防音保護具（耳栓）・保護手袋・長袖・長ズボン**を必ず着用して下さい。 7．軍手・布製の手袋・ダブダブの服・装飾品など投入物に引っ掛かり、**引き込まれる可能性**のあるものは着用しないで下さい。 8．エンジンを始動する際は、走行クラッチレバー「下」停止位置、ロータクラッチレバーが**「切」**位置にある事を確認して下さい。 9．**異常**を感じたら、すぐに作業を中止し点検して下さい。 10. 作業中の点検はエンジンを停止し、回転部が完全に**止まってから**行って下さい。 11. 本機から離れるときは必ずエンジンを**停止**し、回転部が完全に停止したことを確認して下さい。 12. 作業終了後は、必ず本機各部の**点検・清掃**を十分行って下さい。 13. エンジン**回転中**やエンジンが**熱い間**は注油・給油及び点検整備は絶対してはいけません。 14. 燃料の運搬や補給などの取扱い時は、**くわえ煙草・裸照明**は絶対してはいけません。 15. 操作系の点検は一部試走確認点検が必要であるため、平坦で広く障害物のない**安全な場所**で行って下さい。その際整備が必要な場合は1.項目内容を厳守して下さい。 16. 取外したカバー類は、**元通りに**装着して下さい。

始 業 点 検

NO	ここを		こんな点検をして	こう処置する
1	エンジン	燃料タンク	必要な量の燃料があるか 燃料もれはないか	補給する。整備する。 ・レギュラガソリン
		クランクケース	検油ゲージの上下刻線の間に油量があるか。汚れていないか	補給する。汚れがひどければ交換する。 ・エンジンオイル（1.2L） SE級以上、エンジン取扱説明書参照
		エアクリーナエレメント	ゴミの付着や汚れがないか	エアクリーナエレメントのゴミを除去し、きれいに清掃する。 エンジン取扱説明書参照

始 業 点 検

NO.	ここを		こんな点検をして	こう処置する
2	操作系	ﾛｰﾀｸﾗｯﾁﾚﾊﾞｰ	入切が確実に行えるか	適正に調整する
		走行ｸﾗｯﾁﾚﾊﾞｰ （駐車ﾌﾞﾚｰｷ）	遊びしろは適正か ブレーキの効きは十分か	適正に調整する
		ｻｲﾄﾞｸﾗｯﾁﾚﾊﾞｰ	左右の旋回はスムーズに行えるか	適正に調整する
3	チッパーナイフ		取付ボルト・ナットのゆるみはないか 刃こぼれ、ひび等がないか	増締めする 反転、又は交換する
4	受刃		取付ボルトのゆるみはないか 刃こぼれ、ひび等がないか	増締めする 反転、又は交換する
5	走行ミッション		オイルは規定量入っているか	補給する ・ギヤオイル#90(0.7L)
6	クローラ		張りは適正か。 スチールコード・ゴムの破損、劣化はないか	張りを正しく調整する 交換する
7	ロータベルト		張りは適正か。磨耗やほつれはないか	張りを正しく調整する 交換する
8	パワーパック （ﾀﾝｸ付油圧ﾎﾟﾝﾌﾟ）		オイル漏れは発生していないか 取付ボルトのゆるみはないか オイルは規定量入っているか	オイル漏れは増締めして様子を見る 増締めする 補給する 油圧作動油ISOVG46相当粘度(3ﾘｯﾄﾙ)
9	パワーパックベルト		張りは適正か。磨耗やほつれはないか	張りを正しく調整する 交換する
10	油圧ホース・油圧系各部		オイル漏れは発生していないか、切れ、磨耗、ねじれ、接合部のゆるみはないか	新品と交換する 接続部のゆるみ、オイル漏れは増締めして様子を見る
11	重要なボルト・ナット ・エンジン取付ボルト ・ロータハウジング取付ボルト ・ロータカバー固定ナット		取付ボルト・ナットのゆるみはないか	増締めチェックする
12	各ワイヤ・レバー・支点及び磨耗部・しゅう動部		潤滑油が不足していないか 適正に作動が行えるか	適量注油する 適正に調整する ギヤオイル#90、WD-40など

※処置をしても直らない場合は、販売店へご相談下さい。

上手に運転するには（１）～安全を確認して慎重に運転しましょう～

⚠ 注　意

■エンジンを始業する前に下記の点検を行って下さい。
1．エンジンオイル量
2．エンジンエアクリーナーエレメントの汚れ
3．作動油タンクのオイル量
4．燃料タンクの油量
5．各部の油もれ
6．車体各部のボルト・ナットなどのゆるみ
　1）ローターハウジングカバー固定ナットのゆるみ
　2）チッパーナイフ固定ボルトのゆるみ
　3）シュレッダーナイフ軸のゆるみ
　4）排出ダクト固定ナットのゆるみ
7．ベルトの張り具合、磨耗やほつれ

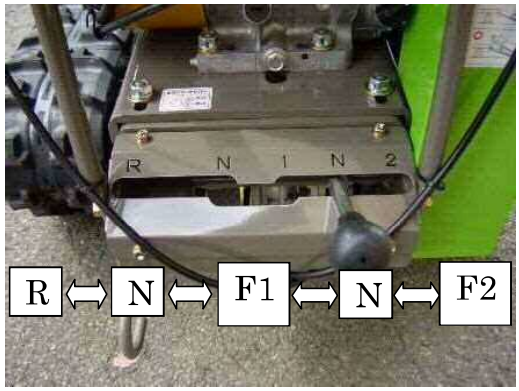
⚠ 危　険

1. エンジンを始動する際は、走行クラッチレバーが「切」位置、ロータークラッチレバーが「切」位置にある事を確認して下さい。
2. 走行停止後、粉砕作業時は、シフトレバーをN（中立）位置にして下さい。

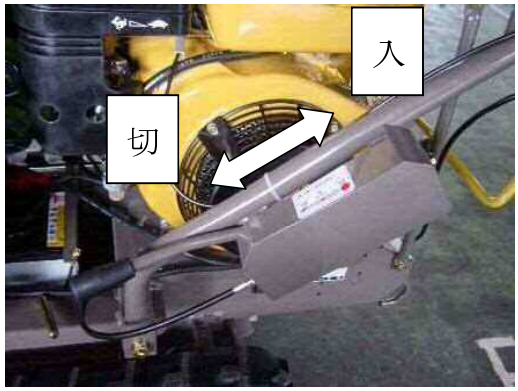
エンジンの始動のしかた

1．走行クラッチレバーを「下」位置にして下さい。

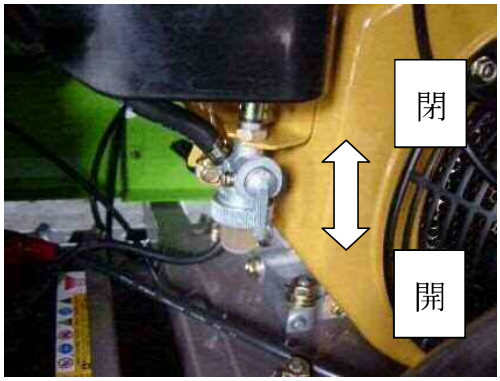
2．シフトレバーを「N（ニュートラル）」位置にして下さい



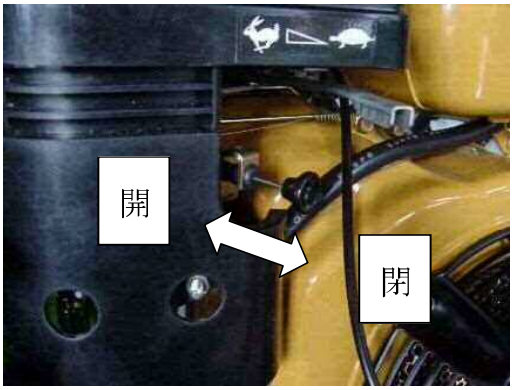
3．ロータクラッチレバーを「切」位置にして下さい。



4．燃料コックを「開」位置にして、エンジンキーを差し込んで下さい。



５．チョークレバーを「閉」位置に（引き出す）して下さい。



６．エンジンキーを右に回し ＯＮ 位置にして下さい。更に右へ回し ＳＴＡＲＴ 位置に入れエンジンが始動したらすぐ離して下さい（キーは ＯＮ 位置に止まります）。キーを ＳＴＡＲＴ 位置に５秒以上入れないで下さい。
始動しない場合は、１０秒程間をあけて再度始動して下さい。

７．エンジンが始動したらチョークレバーを徐々に「開」位置に（押し込む）して下さい。

８．エンジン始動後、負荷をかけずに１～２分程低速で**暖気運転**して下さい。

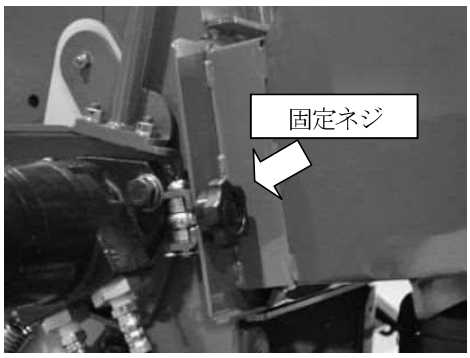
注 意 １

チョークノブの開度は、寒い時やエンジンが冷えている時は「閉」位置にして下さい。また、暖かい時や運転停止直後、再始動する場合は「開」位置もしくは「半開」位置にして下さい。

注 意 ２

ＳＴＡＲＴ 始動を３回以上行っても始動しないとき、続けて何回も ＳＴＡＲＴ 始動していると燃料を吸いすぎ始動困難になりますので、チョークノブを「開」にし、スロットルレバーを「中」位置から「高」位置にしてから ＳＴＡＲＴ 始動して下さい。

９．給油の際は、エンジンを停止しホッパー固定ネジを外して、ホッパーを開けて下さい。



１０．給油キャップを開けて、給油して下さい。

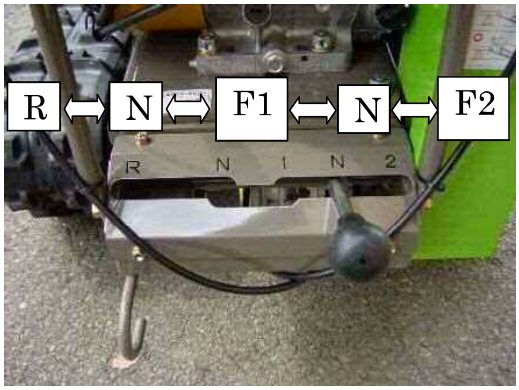
発進のしかた

1．走行クラッチレバーが「下」位置にあることを確認して下さい。

2．シフトレバーを「F1：前進１速」、「F2：前進２速」、「R：後進」のいずれかの位置にして下さい。

3．走行クラッチレバーをゆっくり「上」の位置にして発進します。

4．スロットルレバーの位置を変えて速度を調整します。



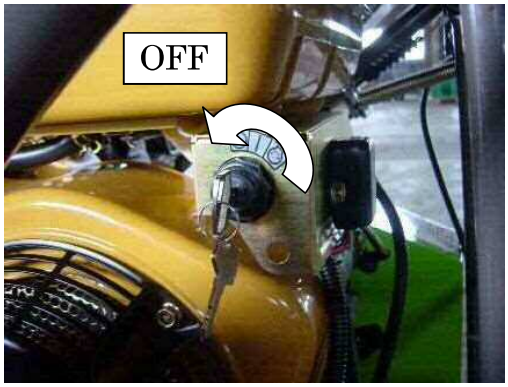
停止のしかた

1．スロットルレバーを「低」位置にして減速します。

2．走行クラッチレバーを「下」位置にし、平坦地に停車します（同時に駐車ブレーキが掛かります）。

3．シフトレバーを「N（ニュートラル）」位置にします。

4．エンジンスイッチをＯＦＦの位置にし、エンジンを停止します。



5．燃料コックを閉じて下さい。

変速のしかた

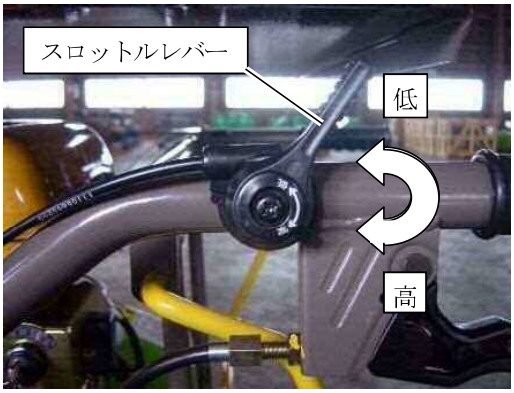
1．スロットルレバーを「低」位置にします。

2．走行クラッチレバーを「下」位置にして停車します。

3．シフトレバーを作業に適した位置に入れます。
「F」…前進　「R」…後進

4．走行クラッチレバーをゆっくり「上」の位置にして発進します。

5．スロットルレバーの位置を前後して速度を調整します。



注 意 1

走行クラッチレバーと駐車ブレーキが連動しており、走行クラッチレバーを「下」位置にすると自動的に駐車ブレーキがかかり、「上」位置にすると解除します。

注 意 2

走行クラッチレバーと駐車ブレーキが連動しているために、チェンジが入りにくい場合があります。

注 意 3

変速は必ず走行クラッチレバーを「下」にしてから操作して下さい。

旋回のしかた

1．左旋回する場合は、サイドクラッチレバーLを握り込んで下さい。左側のクローラが停止し、機体は左旋回します。

2．右旋回する場合は、サイドクラッチレバーRを握り込んで下さい。右側のクローラが停止し、機体は右旋回します。

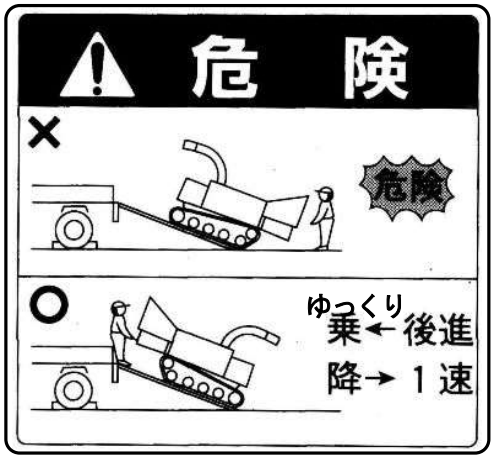
注 意 1

左右のレバーを同時に握り込むと走行は停止します。

注 意 2

下り傾斜の場合は、逆操作になる場合がありますのでご注意下さい。

トラックへの積み降ろしのしかた



⚠ 危　険

■トラックなどへの積み降ろしは危険です。後進でゆっくり積み、前進でゆっくり降ろし転落しないように十分注意して下さい。

■トラックは平坦な場所に停止し、駐車ブレーキと車止めをして下さい。

■ブリッジは表示積載荷重が本機重量以上の表示のものを18°以内にセットして下さい。

1．積み降ろしのしかた

⑴ 周囲に危険物のない、平坦な場所を選び、本機からは降りて操作して下さい。

⑵ トラックは動き出さないようにエンジンを止め、ギヤをバックに入れ、サイドブレーキを引き、さらに「車止め」をして下さい。

⑶ 基準に合ったブリッジを使用して下さい。
左右のクローラがブリッジの中央に位置するようにセットしてから積み降ろしを行って下さい。

2．ブリッジ基準

⑴ ブリッジは、強度・幅・長さ・すべり止め・フックのあるものを使用して下さい。
長さは、トラック荷台までの高さの３．５倍以上あるものを使用して下さい。

⑵ 幅は、本機のクローラ幅にあったものを使用して下さい。

⑶ 強度は、本機重量および作業者の体重の総和に十分耐え得るものを使用して下さい。

⑷ 表面は、スリップしないように表面処理が施されたものを使用して下さい。

警告 1

運搬に使用する自動車は、荷台に天井のないトラックを使用して下さい。

警告 2

トラックへの積み降ろしは、平坦で安定した場所を選んで下さい。思わぬ事故やケガをまねく恐れがあります。

警告 3

ブリッジのフックはトラックの荷台に段差のないよう又、外れないように確実に掛けて下さい。

警告 4

トラックへの積み降ろしの際、ブリッジ上での方向転換、変速はしないで下さい。

警告 5

本機がブリッジとトラックの荷台との境を越えるときには、急に重心の位置が変わりますので、十分に注意して下さい。転倒・転落による事故やケガをまねく恐れがあります。

警告 6

トラックに積んで移動するときは、走行クラッチレバーは「下」位置にし、十分に強度のあるロープで確実に固定して荷台の上で動かないよう「車止め」を掛けて下さい。機械の転落や、本機の運転席への突っ込みによる重大な事故やケガをまねく恐れがあります。

警 告 7

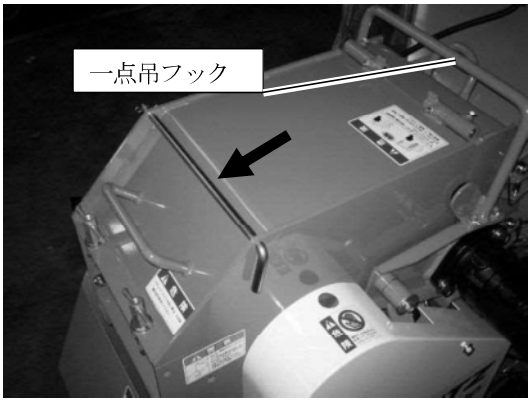
本機のクローラがブリッジの中央に位置するようにして作業を行って下さい。

警 告 8

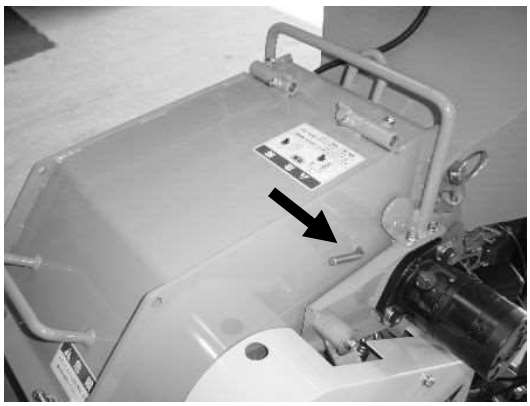
原則として、積み込む場合は後進で「R：後進」位置、降ろす場合は「F１： 前進１速」位置で行って下さい。さらにスロットルレバーは「低」位置にし、ゆっくりと行って下さい。

注意

（1） 一点吊フックを使用する場合は、下図についているツリセットピンを外します。



（2） 外したものを下図の位置に取付けます。



（3） 吊作業が終わったら、ツリセットピンは元の位置に戻して下さい。

ロータクラッチの入・切のしかた

1．ロータクラッチが、確実に切れている事を確認してからエンジンを始動させ、スロットルレバーを「高」位置にして、エンジン回転をフルスロットルにします。

2．ロータクラッチレバーを「切」と「入」の中間位置（半クラッチ）にゆっくり倒し、エンジン音、ブレ等の様子を見ながら、エンジンが大きくブレない位置で保持します。

3．ロータ回転が上昇し定速になるまでロータクラッチレバーを保持します。

4．定速になったら、ロータクラッチレバーを「入」位置に向けてゆっくり倒します。

5．粉砕作業はエンジン回転数を最高まで上げて作業を行ってください。

注 意

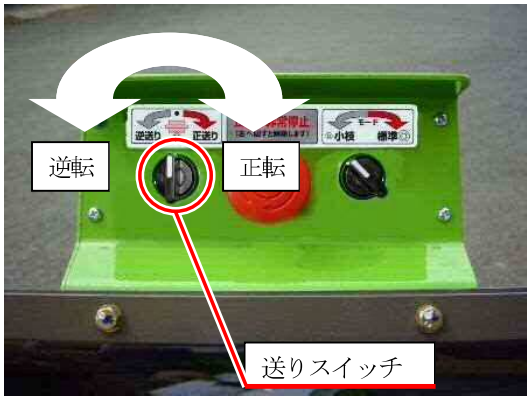
急に接続するとエンストを起こしたり、ベルトの破損につながりますので、クラッチ操作は必ずゆっくり行って下さい。

6．ロータを停止させる場合は、ロータクラッチレバーを「切」位置にすると、ロータは停止します。

その際にスロットルレバーを「低」位置にするとエンジンブレーキがかかり、ロータの回転をはやく低下させることが出来ます。ロータの回転を十分落としてからロータクラッチレバーを「切」位置にして下さい。

送りローラ操作のしかた

1．送りスイッチを「右」位置にすると送りローラは正転し材料をロータ内部へ搬送します。
2．送りスイッチを中立位置にすると送りローラは停止します。
3．送りスイッチを「左」位置にすると送りローラは逆転し材料を排出します。



注 意 1

この機械に投入出来る材料は最大で直径１２０mmです。それ以上大きい材料がある場合は、投入前に材料を薪割機等で小さく(細かく)してから作業を行って下さい。

注 意 2

送りローラは、マイコンで自動送り制御しています。負荷によりエンジン回転が落ちると送りローラは自動停止し、エンジン回転が復帰すると回転します。
粉砕作業は、粉砕モード切替スイッチの標準モードではスロットル全開で粉砕作業を行います。
小枝モードはスロットル中速域で粉砕作業を行います。（省エネ運転）

粉砕モード切替のしかた

非常停止ボタン右側にある粉砕モード切替スイッチを操作することにより樹木の太さに合った粉砕モードに切替ます。
粉砕モードの選定は以下を参考にして下さい。

・スイッチ右方向：標準モード
　粉砕物直径が５~６ｃm程度以上の場合や硬い材質の場合には標準モードでスロットルレバーは高速で粉砕して下さい。
・スイッチ左方向：小枝モード
　粉砕物直径が５~６ｃm程度以下で特別硬くない材質の場合には小枝モードでスロットルレバーは中速で粉砕して下さい。

注　意 1

粉砕物直径が５~６ｃm以下の樹木でも多くを束ねて粉砕する場合には、標準モードで粉砕して下さい。

注 意 2

粉砕物直径が５~６ｃm以上の樹木は標準モードに切替てスロットルを高速(エンジン全開)で粉砕して下さい。

注 意 3

小枝モードで送りスイッチを「右」位置（正転）にしても送りローラが回転しなければ、スロットルを少しずつ上げていき回転し出した位置から少し開けて下さい。

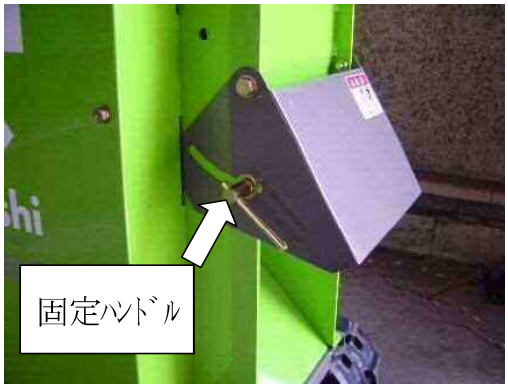
正送り非常停止のしかた

1．正送り非常停止スイッチを押すと、送りローラの正転のみ停止します。逆転は可能です。

2．正送り非常停止スイッチは、右へ回すと解除します。（スイッチが元の位置に飛び出します。）

シュータの固定と排出方向

1．粉砕された材料は、シュータより勢いよく排出されますので事故につながる可能性があります。
作業に入る前に、シュータの排出方向を定め、作業中にシュータが動かないようにシュータ固定ハンドルをしっかり締めてから作業を開始して下さい。



注 意 1

粉砕した材料の排出方向は、エンジンがほこりを吸い込み、トラブルが発生することを避けるために、風向きを考慮し作業位置を工夫して、出来るだけエンジン側にほこりがこないようにして下さい。

注 意 2

前が見えにくいため、作業時および走行時は、回りの安全を十分確認の上、作業を行って下さい。

2．シュータの角度を変えることにより、チップの排出角度を変えることができます。

樹木の粉砕のしかた

1．粉砕作業は平坦地を選び走行レバーが「切」位置、シフトレバーが「N(ニュートラル)」の位置にあることを確認して下さい。
2．ロータクラッチを「ロータクラッチの入・切のしかた」（Ｐ１９参照）の手順で「入」にします。
3．送りスイッチを正送り側へまわし、粉砕物にあった粉砕モードを選択します。（Ｐ２０「送りローラ操作のしかた」、「粉砕モード切替のしかた」参照）
4．粉砕作業を開始します。

注 意 1

ホッパーから投入できる材料は最大で直径１２０ｍｍです。それ以上大きな材料の場合は、投入前に材料を小さく(細かく)してから作業を行って下さい。

注 意 2

材料を投入する際に材料が暴れたり、粉砕中にホッパーから粉砕物の破片が飛び出してくることがありますので、ホッパーの正面に立たずに、脇に立って作業を行って下さい。

塩ビ管の粉砕のしかた

1．粉砕作業は平坦地を選び走行レバーを「切」位置にあることを確認して下さい。
2．ロータクラッチを「ロータクラッチの入・切のしかた」（Ｐ１９参照）の手順で「入」にします。
3．粉砕作業を開始します。

（1）ホッパーから投入の場合

送りスイッチを「正送り」位置にして、ホッパーから材料を投入して送りローラにかみこませて粉砕して下さい。

注 意 1

ホッパーから投入できる材料は最大で直径９０ｍｍ、厚さ５ｍｍです。どちらかがそれ以上大きなサイズの材料の場合は、投入前に材料を小さく(細かく)してから作業を行って下さい。

注 意 2

材料を投入する際に材料が暴れたり、粉砕中にホッパーから粉砕物の破片が飛び出してくることがありますので、ホッパーの正面に立たずに、脇に立って作業を行って下さい。

（2）上部投入口から投入の場合

上部投入のふたを開け、粉砕物を投入し、すみやかにふたを閉めて下さい。

注 意 1

上部投入口から投入できる材料は最大で直径１６５ｍｍ、厚さ８ｍｍ、長さ５００ｍｍです。どの寸法かがそれ以上大きなサイズの材料の場合は、投入前に材料を小さく(短く)してから作業を行って下さい。

注 意 2

上部投入では自動制御機構がないため、大きな(厚い、長い）材料を投入した場合に多大な負荷がかかりエンジンが停止する恐れがあります。

注 意 3

粉砕時に粉砕物がホッパー側から飛び出さないようにホッパーふたでふたをして下さい。

上手に運転するには（２）～ナイフの交換手順と注意事項～

注　意

１．点検・整備をする時は、ロータクラッチを「切」位置、走行クラッチレバーを「下」位置、シフトレバーを「ニュートラル」位置にして、エンジンを停止しエンジンキーを外してから行って下さい。
２．点検は、回転部が完全に止まってから行って下さい。
３．チッパーナイフを扱う際は、必ず保護手袋を着用し、けがのないよう十分注意を払って下さい。
４．取外したカバー類は元どおりに装着して下さい

⚠ 危　　険

■ **チッパーナイフを扱う際は、必ず保護手袋を着用して下さい。**

チッパーナイフの反転・交換

チッパーナイフが切れなくなると、エンジンに負荷がかかり、チップが詰まりやすくなったり、騒音や振動が激しくなり、機械各部やベルトにも無理がかかり、寿命が著しく短くなりますので、定期的にロータカバーを開け、チッパーナイフに歯こぼれ，ひび等の異常がないか点検して下さい。

１．ロータカバーの固定ネジを緩めロータカバーを開けて下さい。
２．ロータクラッチレバーを「切」位置にして、ロータを回しロータロックピンが挿せる位置にして下さい。
３．ロータロックピンを「ロック」位置に差し、ロータが回らないようにして下さい。
４．六角レンチにて六角穴付皿ボルト（４本）を固定し、裏側にあるナットを緩め六角穴付皿ボルト（４本）を外して下さい。
５．チッパーナイフを反転、または交換後は、六角穴付皿ボルト（４本）を２枚ともにしっかりと締め付けて下さい。
６．チッパーナイフの反転、または交換後は、ナイフの調整（P.25）の要領で、必ず受刃の調整を行って下さい。
７．チッパーナイフの反転、または交換後は、ロータロックピンとロータカバーを元に戻し、固定ネジをしっかりと締め付けて下さい。

重 要

チッパーナイフの取付け、受刃の調整が終わりましたら、必ずロータを手で回転させ、チッパーナイフと受刃が**当らないこと**を確認して下さい。

注 意

(1)　ナイフ取替え時（反転、研磨の際）はスプリングワッシャの新品と交換して下さい。
(2)　ナイフ新品交換の際はボルト・ナット・スプリングワッシャ・座金を新品と交換して下さい

受刃の反転・交換

⚠ 危　　険

■ チッパーナイフを扱う際は、必ず保護手袋を着用して下さい。

受刃の刃先が丸くなったら受刃を固定している M12 の固定ボルト（２本）を外して、反転または交換して下さい。
受刃を反転・交換する場合は、以下の要領で行って下さい。

１．ロータカバーの固定ネジを緩め、ロータカバーを開けて下さい。

２．リングピンを抜いて、ホッパーを開けて下さい。

３．受刃を下側から固定している M12 の受刃固定ボルト（２本）を外して下さい。

４．受刃を反転、または交換して下さい。

５．ナイフの調整の要領で受刃の調整を行い、M12 の受刃固定ボルト（２本）をしっかりと締め付けて下さい。

重 要

受刃の取付け、調整が終わりましたら、必ずロータを手でゆっくり回転させ、チッパーナイフと受刃が**当らないことと隙間が０．５mm前後あること**を確認して下さい。

６．受刃の反転、または交換後は、ロータロックピンとロータカバーを元に戻し、固定ネジをしっかりと締め付けてください。

ナイフの調整（重要）

チッパーナイフや受刃の反転・交換を行った場合、必ずエンジンを停止して次の手順でチッパーナイフと受刃の**すき間を調整**して下さい。

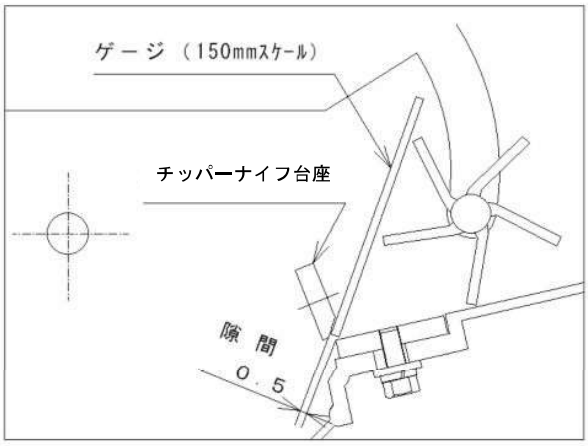
・受刃の調整

1．ロータカバーを固定している M10 の固定ネジ（２ヶ）を緩めロータカバーを開いて下さい。

2．受刃を下側から止めている M12 の固定ボルト（２本）を緩めて下さい。

3．手でロータをゆっくり回して、チッパーナイフ台座の先端を受刃の位置で止めます。

4．付属のゲージ（１５０ｍｍスケールの厚み）を使って受刃とチッパーナイフ台座の隙間を調整します。（０．５ｍｍ）



5．手でロータをゆっくり回して、２枚のチッパーナイフと受刃が当たらないことと、隙間が０．５ｍｍ前後あることを確認して下さい。

6．調整が済んだらロータカバーを閉め固定ネジをしっかり締めてください。

・ チッパーナイフの反転・交換

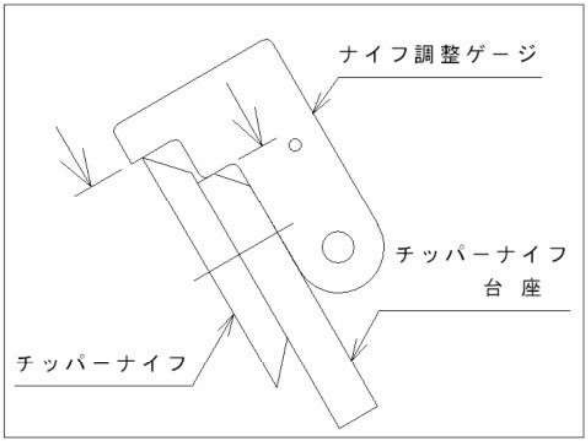
1．ロータカバーを固定している M10 の固定ネジ（２ヶ）を緩めロータカバーを開いて下さい。

2．ロータロックピンをロータハウジングの外側からロータへ挿して固定します。

3．チッパーナイフを固定している Ｍ１２のネジ(ナット側４ヶ)を緩めて入れ換えます。

4．Ｍ１２のネジを軽く締めます。

5．付属の調整ゲージ(小)を図のようにチッパーナイフ台座に押し当てて、チッパーナイフ先端がゲージに接触するように左右を調整しネジ （４ヶ)をしっかりと締めて下さい。



6．もう一方のチッパーナイフを同じ要領で調整してください。
調整後、ネジ(４ヶ)をしっかり締めて下さい。

7．調整が終わったら、ロータロックピンを収納場所に戻し、手でロータをゆっくり回して受刃に当たらないこと、隙間が０．５ｍｍ前後あることを確認して下さい。

注 意

チッパーナイフ、受刃の固定ネジは締め不足、締め忘れのないようにして下さい。
作業中に外れると機械が破損するばかりではなく、金属片が飛び出して大変危険です。

8．調整が済んだらロータカバーを締め固定ネジをしっかりと締めてください。

シュレッダーナイフの取り付け

※オプション取付時

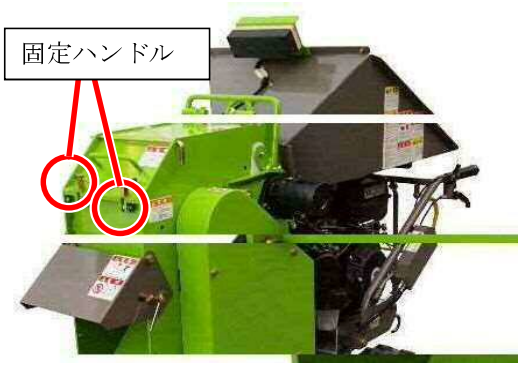
⚠ 危　　険

■ シュレッダーナイフを扱う際は、必ず保護手袋を着用して下さい。

シュレッダーナイフが磨耗した場合は、シュレッダーナイフを固定しているシュレッダーナイフ軸を取外して、取付面を変え鋭利な刃先で材料を粉砕するようにして下さい。シュレッダーナイフは１枚で４角使用できます。シュレッダーナイフの４角の刃先がすべて丸くなったらシュレッダーナイフを交換して下さい。

シュレッダーナイフを反転・交換する場合は、以下の要領を参考に行って下さい。

１．ロータカバーの固定ハンドルを緩めロータカバーを開きます。

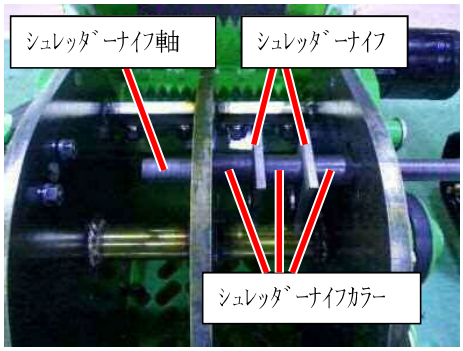


２．ロータに片側のみシュレッダーナイフジクオサエを取り付け、M8　SW 付ナットで固定します。

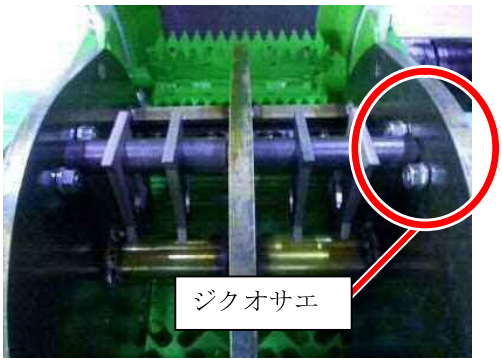
注 意

SW 付ナットを固定する際は、ロータロックピンを差し、ロータが回らないようにして作業を行って下さい。

３．シュレッダーナイフジクオサエを取り付けた側の反対側からシュレッダーナイフ軸を挿入し、下図の様に交互に取り付けます。



４．上図左側も３と同様にし、シュレッダーナイフジクオサエを２と反対側に取り付けます。



５．ロータを 180°回した反対側も、同様にシュレッダーナイフを取り付けます。

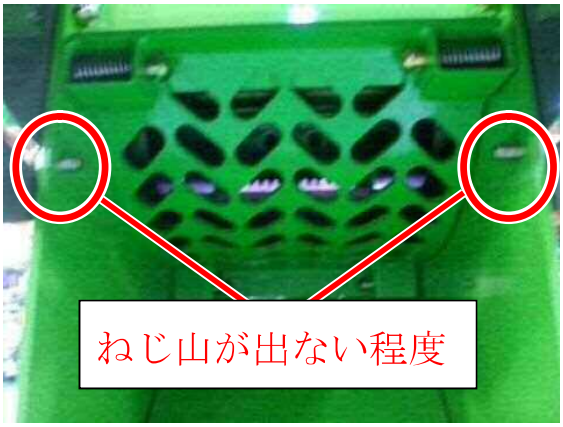
６．ロータカバーをしめ、１の固定ハンドルを締めます。

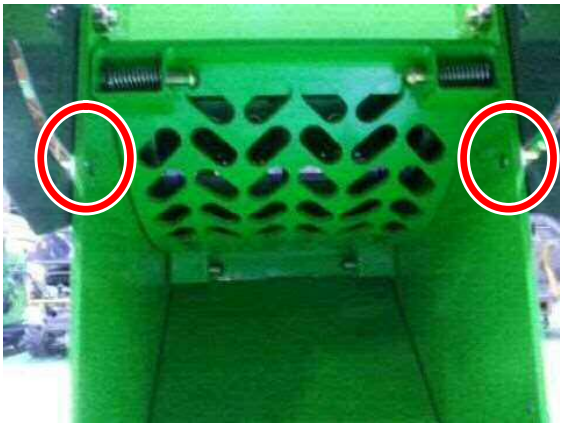
スクリーンの取り付け・取り外し

※スクリーンの取り付け・取り外しを行う際は、必ずロータが停止していることを確認してから、作業を行って下さい。

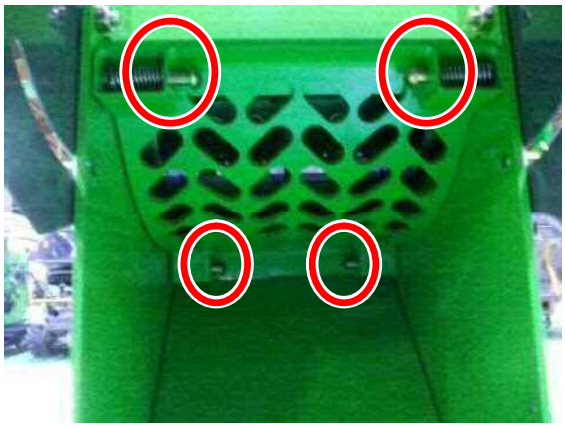
取り外し

１．シュータ固定ハンドルを、ハウジングの内側にねじ山がでない程度まで緩めてください。





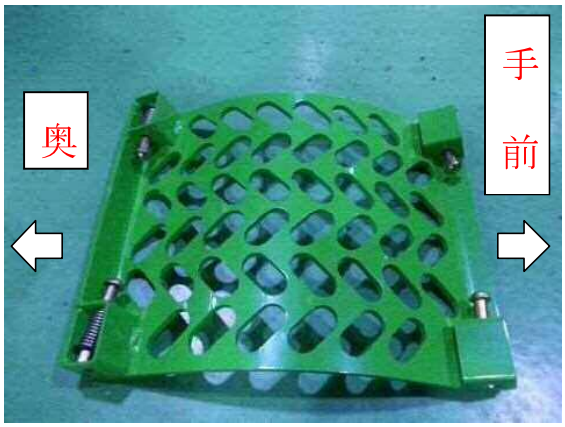
２．スクリーンにあるピンを、手前から奥へと順に外し、スクリーンを取り外して下さい。



取り付け

取り外しの逆順で取り付けて下さい。

※ 取り付ける際は、スクリーンの向きに注意して取り付けて下さい。（逆に付けると、取り付けできません）



粉砕作業時の注意点

注　意

１．つまりの原因を除去する場合、ナイフでケガをしないよう、十分に注意して作業に当たって下さい。
２．粉砕する材料に金属類（釘・針金・金属片・土・砂・石など）や異物が混入していないことを確認のうえ、作業を行って下さい。
３．粉砕作業は、
１）シフトレバーは「Ｎ（ニュートラル）」位置、走行クラッチレバーは「下」位置で行って下さい。
２）スロットルレバーは「高」位置にして、フルスロットル状態で作業を行って下さい。
３）１Ａヒューズが切れると、自動正送り制御が働かず、エンジンストップに至る場合があります。
４．住宅地での作業では、周りへの騒音に注意を払って下さい。
５．作業時、エンジン停止直後のマフラおよびその周辺は、高温のため触れないよう十分注意して下さい。
６．**危険防止のために**（Ｐ1～Ｐ2）、**運転を始める前に**（Ｐ11）を再読して下さい。

１．　つまり防止

つまりの発生を防止するために、下記の事項に十分注意の上、作業を行って下さい。

(1) ロータが完全に回り出してから粉砕作業を開始して下さい。

(2) 作業時は、半クラッチやクラッチを切った状態での使用を避け、必ずロータクラッチレバーを「入」位置にして接続した状態で使用して下さい。

(3) スロットルレバーは「高」位置にして、フルスロットル状態で作業して下さい。**エンジンの回転数が低いと送りローラが正転しません。**

(4) ロータベルトの張り点検を行い動力が十分伝わる状態で使用して下さい。（エンジン及びロータが完全に止まっていることを確認の上、点検して下さい。

(5) 粉砕材料（特に枝、葉）が、雨や水に濡れている場合は、粉砕作業はできません。

注 意

材料が送りローラに噛みこんだままエンジンが停止した場合

(1)　エンンジンキースイッチを「OFF」にして下さい。
(2)　ロータクラッチを「切」にして下さい。
(3)　噛み込んだロータを解除して下さい。
(4)　ロータが手で軽く回ることを確認して下さい。
(5)　送りスイッチを中立位置にして下さい。
(6)　エンジンを始動して下さい。
(7)　スロットルレバーを「高」位置にして、エンジン回転をフルスロットルにします。
(8)　ロータクラッチを「入」にして下さい。
(9)　送りスイッチを逆転位置にして下さい。
(10)　噛み込んだ材料がホッパ手前に戻ってきますので取り除いて下さい。

2. ひっかかりの除去

(1) ひっかかりを除去した際に、送りローラ部が所定の位置まで下りますが、その際に手等がはさまれる恐れがあり大変危険ですので、フィードボックス・送りローラ取付部に直接触れないようにして下さい。

(2) 材料等がひっかかって、送りローラ取付部がきちんと下がらない場合は、角材・棒等で押して、解除して下さい。

(1) 停止中・運転中にかかわらず、送りローラに触れないようにして下さい。

(2) 整備を行う時は、エンジンを停止して、送りローラにはさまれないように注意して下さい。

(3) ひっかかりを除去する際は、送りローラが落下してきて手等がはさまれたりすることがないように十二分に注意して作業を行って下さい。

(1) エンジン回転中またはロータ回転中に排出側から手を入れるとロータに接触して引き込まれ、けがをする恐れがあります。

定期の点検・整備をするには

調子よく作業するために、定期的に行いましょう

注　　意
ケガの防止や燃料への引火防止のため、点検・整備を行うにあたり、次のことを厳守して下さい。 １．点検・整備をする時は、ロータクラッチを「切」位置にし、シフトレバーを「N（ニュートラル)」位置にしてから行って下さい。 ２．エンジン回転中やエンジンが熱い間は注油、給油は絶対行わないで下さい。 ３．燃料の取扱い時やエンジンの整備時はくわえ煙草・裸照明は絶対しないで下さい。 ４．操作系の点検は、一部走行試験が必要であるため、平坦で広く障害物のない安全な場所で行って下さい。その際整備が必要な場合は１．項目内容を厳守して下さい。 ５．取外したカバー類は元どおりに装着して下さい。

オイル交換

オイル交換の際には次のことに注意して行って下さい。

１．古くなったオイルは、機械の性能を落とすだけでなく故障の原因となります。定期的に古いオイルを抜き取り、新しいオイルを規定量給油して下さい。

	オイル	規定量	交換時間
エンジンクランク室	SE級以上	1.2ﾘｯﾄﾙ(ｹﾞｰｼﾞ付)	初回20時間目 ２回以降100時間毎
走行ミッション	ギヤオイル＃90	0.7ﾘｯﾄﾙ	初回50時間目 ２回以降200時間毎(走行)
パワーパック	ISO VG46相当粘度	3ﾘｯﾄﾙ(ｹﾞｰｼﾞ付)	300時間毎

２．オイルの抜き取りはオイルが暖かいうちに行うと容易に抜くことができます。

注 意

作業直後は、高温のため危険です。しばらくたってから交換作業して下さい。

３．エンジンオイルの質および量の低下は焼付トラブルをまねきます。オイルの品質はＳＥ級以上の良質のもので外気温度に応じて、純正オイル、または、自動車用エンジンオイルを使用して下さい。

４．マルチグレードを使用する場合、外気温が高いときオイルの消費量は増す傾向にありますので注意して下さい。

パワーパック

作動油の補給

１．ISOVG４６相当粘度の油圧作動油を給油して下さい。

２．適正量はシリンダーを縮めた状態で油面が注油口から下､約５０ｍｍの位置です。

３．給油を１回行うと長期間使用できますが、油量が少なくなるとエアーを吸いシリンダーの動作が悪くなるので100時間ごとに油量の点検を行って下さい。

作動油の交換

１．作動油の交換はドレンプラグを外し作動油を全量交換して下さい。

注 意

作業直後は、高温のため危険です。しばらくたってから交換作業して下さい。

（1）パワーパック裏側のドレンプラグを外して作動油を抜き取ります。

（2）ドレンプラグは排油後古いシールテープを取ってきれいに洗浄し、新しいシールテープを巻いて締めて下さい。

２．必ず新しいオイルを使用し、泥およびゴミがタンク内に入らないように給油して下さい。

３．パワーパックへの直接の散水洗浄は避け圧縮空気やブラシ・布などで泥土・ほこり・草屑等を落として下さい。

４．シリンダーを作動させると最初はエアーが入ってノックすることがありますが２～３回繰り返すと良くなります。

５．気温が０℃以下の場合は５分程度暖気運転を行って下さい。

油圧ホース

機械を使用する前に、油圧ホースとパイプのラインをチェックし、切れ･接続部のゆるみ・ねじれ・磨耗の有無を調べて下さい。

危　　険

１．エンジン回転中はホース・パイプ・口金具・継手に手をかざして漏れのチェックや点検をしないで下さい。
２．高圧で吹き出すオイルは皮膚を突き破るのに十分な勢いを持っていて危険です。
３．ホースやパイプは他のフレーム部分に接触させないで下さい。接触させると摩擦により磨耗します。
４．切れたり、磨耗したホースやパイプは機械の使用前に必ず交換して下さい。
５．接続部のゆるみやホース交換・整備でねじれたホースは機械の運転前に必ず直して下さい。
６．ねじれを直すには、ホース金具の固定部分を１本のスパナで押え、もう１本のスパナでホースナットをゆるめます。次にホースのねじれを直しホース口金具側のスパナは固定したまま、ホースナット側のスパナを回して締付けて下さい。
７．アセンブリホース、他継手器具は次表の推奨締付トルクを参照の上、適正な締付けを行って下さい。アセンブリホース接続金具交差は±１０％程度です。このトルクはネジ部に油付着が無い場合です。

金具の締付トルク	１／４	２４（N･m）
●公差は、±10％程度です。 ●このトルクはネジ部に油付着が無い場合です。		

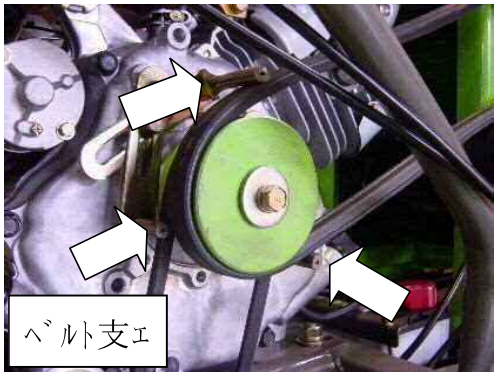
走行クラッチ

警 告

走行クラッチの入・切があまいと本機の走行や停止の作動に支障をきたす恐れがあり大変危険です。
走行や停止の作動に異常を感じたときには即座に下記の調整を行い、常に安全を心掛けるようにして下さい。

走行クラッチの調整

１．走行クラッチレバーを「上」位置にして下さい。（走行クラッチが入ります）
２．右サイドカバー（中）、右サイドカバー（後）を固定しているＭ８のボルト（５本）を緩め、外します。
３．走行ベルトの張りが弱い場合、ワイヤアジャスタを伸ばして調整します。調整後ロックして下さい。
４．走行クラッチレバーを「下」位置（走行クラッチが切れます）にしてエンジン始動の要領でエンジンを始動し、走行ベルトクラッチが確実に切れることを確認して下さい。
５．走行ベルトクラッチが切れない場合は、ベルト支えの調整を行って下さい。



６．走行クラッチベルトの張りがワイヤアジャスタで張れなくなった場合は、新品のベルトと交換して下さい。

駐車ブレーキ

ブレーキの効きがあまいと非常に危険です。逆にブレーキを引きずると本機故障の原因となりますので、ブレーキの利き方に異常を感じたときには即座に下記の調整を行い、常に安全を心掛けるようにして下さい。

1. 駐車ブレーキワイヤアジャスタ調整

(1) 走行クラッチレバーを「下」位置（駐車ブレーキが掛かります）にして、駐車ブレーキワイヤが張っているか確認します。（先端のスプリングがわずかに伸びます）

(2) 張りが弱い場合は、ワイヤアジャスタを伸ばして調整します。

(3) 走行クラッチレバーを「入」位置にし、駐車ブレーキワイヤがたるんでいることを確認して下さい。張っている場合は、駐車ブレーキワイヤアジャスタの張りすぎです。再調整します。

2. 駐車ブレーキシューの点検と交換

駐車ブレーキの点検は 3 ケ月毎に行って下さい。

(1) シューの使用限度厚みは １．５ｍｍ ですが、２ｍｍ以下の場合は新品と交換して下さい。新品との交換が済むまで機械の使用を控えて下さい。

(2) 駐車ブレーキの効きが甘い場合やシューが焼けている場合は、シューの厚みが使用限度内であっても、新品と交換して下さい。その他、ドラムの磨耗、変形、大きなキズ、ひび割れスプリングの破損やへたり、カムレバー（走行ミッションの駐車ブレーキアーム）のカム磨耗などが有る場合は新品と交換して下さい。

(3) シュー交換後に、**駐車ブレーキレバー引代調整**を行って下さい。

(4) ブレーキが引きずる場合、(3)と同じ要領でワイヤを B の方向に動かします。

(5) 走行ミッション側だけのアジャスト量だけで不足の時はレバー側のワイヤアジャスタも動かして調整して下さい。
調整後は、ロックナットを確実に締め付けて下さい。

(6) 駐車ブレーキワイヤアジャスタの調整代がなくなった場合は、駐車ブレーキワイヤを交換し駐車ブレーキレバーの引代調整を行って下さい。
また､シューの磨耗が大きいと考えられますので､走行ミッションのシューの点検を行って下さい。

サイドクラッチ

サイドクラッチワイヤが伸びて、効きがあまくなった場合、又は旋回がスムーズに行えない場合には、サイドクラッチワイヤのアジャスタを下記の要領で調整して下さい。

サイドクラッチの調整

(1) サイドクラッチワイヤのアジャスタのロックナットを緩めます。
(2) エンジンを**エンジン始動の要領**で始動し、ワイヤアジャスタを少し伸ばします。サイドクラッチレバーを「上」位置にし、走行させ左右のサイドクラッチの「切」「入」を確認しながら、ワイヤアジャスタを少しずつ調整して下さい。
(3) サイドクラッチレバーの戻りが悪い場合は、アジャスタをロッドが伸びる方向へサイドクラッチの切れが悪い場合は、アジャスタをロッドが縮む方向へ回して下さい。
(4) 調整後は、ロックナットを確実に締め付けて下さい。

ロータクラッチ

ロータベルトが伸びるとベルトの張りが弱くなり、駆動力の伝達能力の低下やベルトの早期磨耗を引き起こす原因となりますので、定期的に点検・調整を行って下さい。

1. ロータクラッチワイヤの張り調整

(1) ロータクラッチワイヤのアジャスタのロックナットを緩めて下さい。
(2) ロータベルトの張りが弱い場合、ワイヤアジャスタを動かし、ワイヤが伸びる方向へ調整し、ロータクラッチレバー「入」位置で、テンションプーリの反対側のベルト中央を指で軽く押さえたときのたわみ量が１０～１５mmになり、「切」位置で確実にベルトが切れるようにして下さい。

2. ロータベルトの張り直し

ロータクラッチレバー「入」位置で、ロータクラッチワイヤアジャスタの調整代がなくなった場合は、次の手順でベルトを張り直して下さい。

(1) ロータクラッチレバーを「切」位置にして下さい。
(2) ロータクラッチワイヤのアジャスタをベルトの張りが弱くなる方向にネジ部いっぱいに動かして下さい。
(3) エンジンベースを固定している Ｍ１０の固定ナット（４ヶ）を緩めて下さい。
(4) エンジンをベルトが張る方向へ動かし、ロータベルトをエンジン側に軽く引いてエンジンプーリとベルトのすきまが３～６mm になるよう調整し、エンジンの固定ナットを締め付けて下さい。
(5) **１．ロータクラッチワイヤの張り調整**の要領でロータクラッチワイヤの張り調整を行い、ベルト支エの位置調整を行ってロータクラッチレバー「切」位置で確実にベルトがきれるようにして下さい。

3. ロータベルトの交換

ロータクラッチレバー「入」位置で、ロータクラッチワイヤアジャスタの調整代がなくなった場合や、ベルトが摩耗やほつれたりした場合は、次の方法で新しいベルトと交換して下さい。

(1) ロータクラッチレバーを「切」位置にして下さい。
(2) 右サイドカバー（前）（中）（後）を外して下さい。
(3) ロータクラッチワイヤのアジャスタをベルトの張りが弱くなる方向にネジ部いっぱいに動かして下さい。
(4) エンジンを固定しているＭ１０の固定ナット（４ヶ）を緩めて下さい。
(5) Ｒベルトホルダを固定しているＭ１０の固定ボルトを外し、Ｒベルトホルダを外して下さい。
(6) 古いロータベルトをエンジンプーリ側から外し、新しいロータベルトをロータプーリ側から取り付けます。
(7) **２．ロータベルトの張り直し**の要領でロータベルトの張り調整を行って下さい。

4. ロータクラッチの「切」確認

調整が終わったらロータクラッチレバーを「切」位置にしたとき、ベルトのつき回りがないことを確認して下さい。

(1) 右サイドカバーは取り付けず、ロータクラッチレバーを「切」位置にして下さい。
(2) 燃料コックを「開」位置にし、エンジンキーを差し込んで下さい。
(3) エンジンを始動させ、スロットルレバーを「高」位置にしてエンジンをフルスロットルにします。
(4) ロータクラッチレバーを除々に「始動時」－「入」位置にして下さい。
(5) ロータクラッチレバーを、ゆっくり操作し「入」位置、「切」位置を繰り返し、確実に、ロータクラッチが切れることを確認して下さい。
(6) ロータクラッチが切れなかった場合は、エンジンを停止し、燃料コックを「閉」位置にして、ロータベルトのワイヤアジャスタでベルトの張り具合と各ベルト支エの位置を再調整して、確認作業を行って下さい。
(7) 調整が終わったら、右サイドカバーを元どおりに装着して下さい。

注　意

ベルトの装着方向は、プーリの回転方向でベルトの印刷文字の頭がくるようにして下さい。逆にすると、寿命が短くなります。

クローラ

クローラは新品時には初期伸びが、使用時間の経過とともにスプロケットとのなじみによる緩みが生じてきますので、常に点検・整備を行い正常な状態を保つとともに、異常が確認された場合、次の要領でクローラの張りを調整して下さい。

１．車体を水平な場所に置きます。

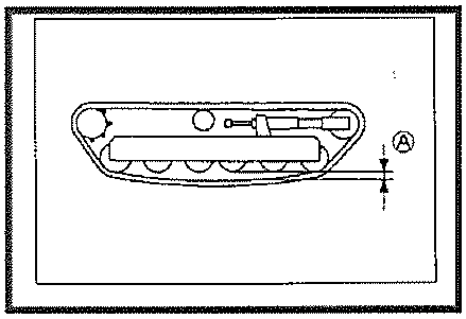
２．ジャッキアップ等して片側のクローラを地面から平行に浮かせます。

注 意

ジャッキ等が外れないように十分注意してください。

３．クローラ張りボルトのロックナットを緩めます。

４．クローラ張りボルトを回して、クローラと転輪の隙間（図中Ａ）が 10～15ｍｍ程度（転輪が水平な状態で）になるよう調整します。



５．調整後、ロックナットを締め付けます。

注 意１

クローラは最初の１０～２０時間で必ず張りの調整をして下さい。

注 意２

左右のクローラの張りが異なると、直進性が悪くなりますので左右同じように張って下さい。

注 意３

クローラが緩んだ状態で使用しますとクローラ外れやスプロケットのかみ合い不良を起こし、クローラが張り過ぎた状態で使用しますと駆動各部の転がり摩擦抵抗の増大および抵抗の増大を招き、クローラの寿命を著しく縮めたり、走行力の低下を引き起こしますので定期的に点検し、調整を行って下さい。

バッテリ

注　　意
１．バッテリの電解液が手・皮膚・衣服についたときは、速やかに多量の水で洗い流して下さい。 ２．バッテリの電解液が目に入ったときは、直ちに多量の水で約１５分間洗眼したのち、速やかに病院で治療を受けて下さい。

バッテリメーカーの取扱い説明書を全部読んで十分理解してから、点検・保守を行って下さい。

1. バッテリの保守

バッテリの保守作業はエンジンを停止しエンジンキーを外してから行って下さい。

(1) バッテリの仕様は、40B19Ｌです。
(2) バッテリを取付けるとき、または取り外すときは、プラスおよびマイナスの端子が、機械の金属のパーツと同時に接触することがないように注意して下さい。
同時接触があると､大きな損傷をひき起こします｡バッテリの保守の作業をするときはいつでも、“アース”ケーブル（－）を最後に接続し､取り外すときは最初に取り外して下さい。
(3) バッテリの接続部は常に、きれいに保ち、かつ締めておいて下さい。ケーブルが緩んでいるとバッテリの不具合を起こす事があります。端子のカバーは、正しい位置に付けて下さい。
(4) 必要に応じてバッテリを石けんと水で掃除して下さい。但し、バッテリの中に石けんや水が入らないよう注意して下さい。
(5) スチール・ウールを使って、ターミナル接続部の表面を磨いて下さい。
(6) ターミナルとケーブルの端に、腐食を防ぐため、シリコン誘電グリースをうすく塗って下さい。
(7) バッテリ・ターミナルにケーブルをしっかり締めて下さい。
(8) バッテリの電解液量が不足している場合はＵＰＰＥＲラインまで精製水を補給して下さい。

2. バッテリの補充電

バッテリの補充電は､バッテリの全項を参照、またバッテリメーカーの取扱説明書を参照して行って下さい。

(1) 充電の前にバッテリを機械から外して下さい。
(2) 充電は風通しのよいところで行い、火気類を近づけないで下さい。
(3) チャージャーが「オフ」になっているかを確認して下さい。
(4) チャージャー・リードをバッテリへつないで下さい。チャージャーからのプラスのコネクタを、プラスのバッテリ・ターミナルへつないで下さい。チャージャーのマイナスコネクタを、マイナスのバッテリ・ターミナルへつないで下さい。

危　　険
ケガを防ぐため、チャージャーを「オン」にしたときは、バッテリから十分距離をおいて離れること。 バッテリが損傷していたり、内部でショートを起こしたバッテリは、爆発することがあります。

(5) 各セルの液口栓を外して下さい。
(6) 充電は下記のいずれかの方法で行います。チャージャーについてのメーカーの指示図に従って下さい。
＊スターターが回らないような場合は、急速充電はしないで下さい。
＊完全充電時の電解液比重は 1.280／20°ｃです。

普通充電	急速充電
14 時間＠2amps 8 時間＠3.5amps	2.5 時間＠14amps 1.5 時間＠23amps 1 時間＠35amps
40Ｃ以下で充電	50Ｃ以下で充電

(7) バッテリ充電のときに、ひどくガスが出たり、電解液が吹き出したり、バッテリのケースが熱く感じられたらバッテリの損傷を防ぐためアンペアを減ずるか、または補充電を一時的にやめて下さい。
(8) バッテリからチャージャー・リードを取外す前に、必ずチャージャーを「オフ」にして下さい。

3. バッテリの交換

バッテリが充電直後もエンジンスタータモータの回転音が、いつもより低くて弱い場合は、バッテリ交換の時期です。新しいバッテリと交換して下さい。バッテリ交換は、**バッテリの保守**の手順で行って下さい。

注 意

バッテリ交換は必ずエンジンを止めて作業して下さい。

エ ン ジ ン

1. エンジンオイルの交換

＊**オイル交換**の項参照

(1) エンジンオイルの交換
初　　回　２０時間運転後に交換
第２回以降　１００時間運転ごとに交換
オイル交換はエンジンを停止し、暖まっている時ドレンプラグを外して抜いて下さい。オイルゲージを外しておくと早く抜けます。

注 意

熱いオイルが体にかかると火傷する恐れがありますので十分に注意して下さい。

(2) オイルを注入する時は、ドレンプラグをしっかり締めて下さい。約１．２リットル入ります。
(3) エンジンオイルが汚れていたり、少なかったり、品質の悪い物を使用するとエンジンの寿命を縮めます。常に良質できれいなオイルを規定量保つように注意して下さい。

2. 点火プラグの清掃と調整と交換

(1) プラグがカーボンで汚れている場合は、プラグクリーナまたはワイヤブラシ等で汚れを落として下さい。
(2) 電極間隙の広い場合は側方電極を曲げて０．６～０．７mmに調整して下さい。
(3) 点火プラグの掃除と電極間隙を調整し、それでもエンジンがかからない場合は新しい点火プラグと交換して下さい。（NGK　BR6HS）
(4) 交換や調整後は、点火プラグを元の位置に締付けプラグキャップを確実に差し込んで下さい。

3. 燃料ストレーナの清掃

危 険

火気厳禁

(1) ストレーナカップ内に水やゴミがたまっていないか調べて下さい。
(2) ゴミ等がたまっている時は、燃料コックを「閉」位置にし、ストレーナカップを左にまわして外して下さい。
(3) ストレーナカップ内の水やゴミを捨て、コシアミに付着しているゴミも捨てて、白灯油で洗浄して本体に完全に締め付けて下さい。

4. エアクリーナの清掃

空気中の塵挨を取り除き、エンジンにきれいな空気を供給するエアクリーナエレメントの汚れがひどい時は、エンジンの始動不良、出力不足、運転の不調をきたすばかりでなく、エンジンの寿命を極端に短くします。
いつもきれいなエアクリーナエレメントにしておくよう心掛けて下さい。

危 険

火気厳禁

(1) エアクリーナエレメントの汚れがひどいときは、以下の要領で清掃して下さい。
１）ノブを外しカバー、エレメント（ウレタンフォーム付）を取り外して下さい。
２）ウレタンフォームは５０時間毎に清掃して下さい。
①汚れが著しい時は交換
②洗油（白灯油）で洗浄後、白灯油 3：エンジンオイル１の混合油に浸し、きつく絞って取り付けて下さい。
③ペーパーエレメントに取り付けて下さい。
(2) ペーパーエレメントは、頻繁に清掃して下さい。また、定期的に交換して下さい。
１）ペーパーエレメントは、軽くたたくか、内側から圧縮空気を吹き付けるか、軽く叩いて汚れを落として下さい。なお、汚れがひどい場合は交換して下さい。
２）ペーパーエレメントは運転２００時間毎、又は、シーズン毎のいずれか早い時期に交換して下さい。（汚れが著しい時はすぐに交換して下さい）

(3)　清掃後、ペーパーエレメントを正しくクリーナベースに置き、ウレタンフォーム、グロメットが正しく装着されているか確認してカバーを取り付け、締め付けて下さい。

5. 燃料パイプの交換

危 険

火気厳禁

(1) 使用頻度に関わらず、燃料パイプは　１００時間毎で交換して下さい。燃料漏れは引火する危険があります。

(2) 点検時、パイプにキズやヒビ等の損傷、燃料漏れ等のあるものは即交換して下さい。

注 意

点検・補給は、必ずエンジンを停止してから行って下さい。

6. 日常点検

ご使用になる前に、次の点検を行って下さい。

- エアクリーナエレメントの汚れ清掃
- 燃料残量
- 周囲の安全
- 異常振動・異常音
- 燃料、オイル等の漏れ
- エンジンオイルの量と汚れ
- 各部ボルトゆるみ、破損

7. 定期点検

エンジンを常に良好な状態で使うため、次の点検表に従って保守点検を必ず実行して下さい。

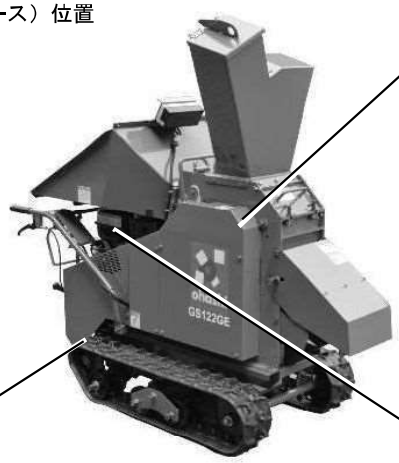
運転時間	8時間（毎日）	50時間（毎週）	200時間（毎月）	500時間	1000時間
各部の清掃及び締付点検	●(毎日)				
エンジンオイルの点検・補給	●(毎日規定最大量まで補給する)				
エンジンオイル交換	（初回20時間目）	（2回目以降100時間毎）			
点火プラグの清掃		●			
エアクリーナの清掃		●			
燃料ストレーナの清掃			●		
点火プラグ間隙清掃と調整			●		
シリンダヘッドのカーボン除去				◎	
気化器清掃				◎	
吸排気弁点検すり合わせ				◎	
オーバーホール					◎

◎印の500時間、1000時間の点検項目は、販売店または整備工場にご用命下さい。

給油・注油するところ

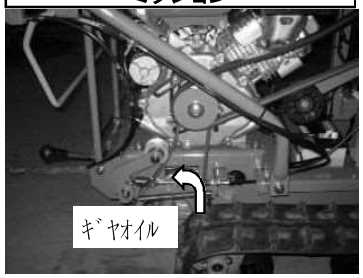
注油位置　　給油位置

給脂（グリース）位置



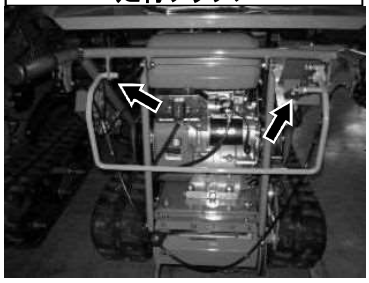
パワーパック

ミッション



燃料タンク

走行クラッチ

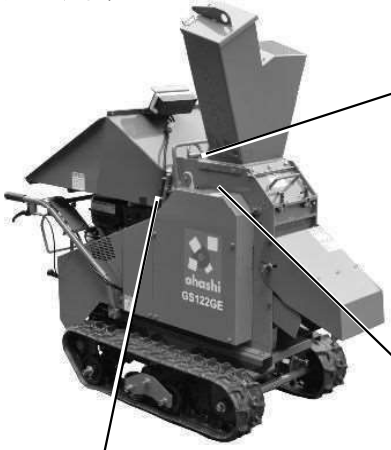


エンジン

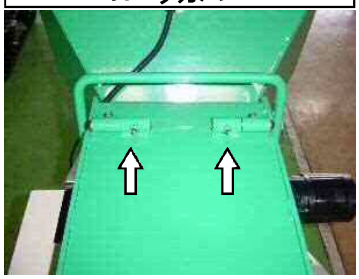
給油・注油するところ2

注油位置　　給油位置

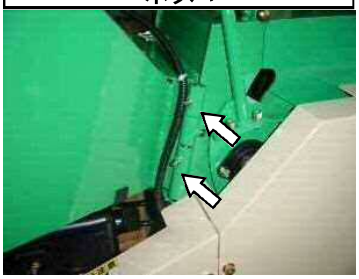
給脂（グリース）位置



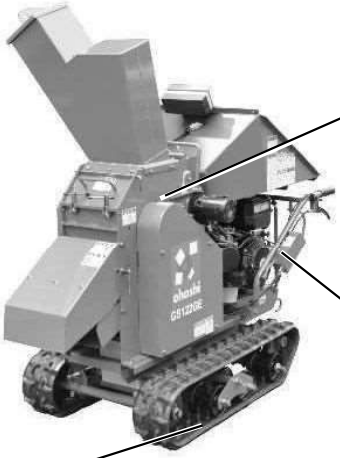
ロータカバー



ホッパ

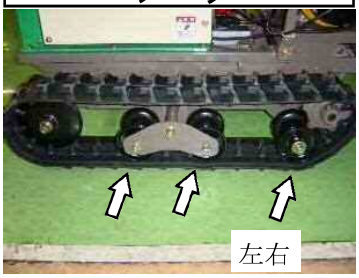


ユニットベアリング



ユニットベアリング

クローラ



ロータクラッチレバー

締付するところ

注意	ボルト・ナット部は多少ゆるむことがありますので、使用前に 各主要部の締付ボルト・ナットの増し締めを行って下さい。

ロータBBユニット固定ナット

エンジン固定ボルト

クローラ転輪固定ナット

Fローラアーム固定ナット

作業後の手入れ／長期保管

作業後の手入れ

１．手入れをする前に次の手順で準備作業を行って下さい。

(1) 走行クラッチレバーを「切」位置にして下さい。

(2) シフトレバーを「ニュートラル」位置にして下さい。

(3) ロータクラッチレバーを「切」位置にして下さい。

(4) 燃料コックを「閉」位置にして下さい。

２．作業を行ったその日の内に、まず水洗いをして機械についたほこり・木屑・泥土等を洗い落して下さい。

注 意 1

ロータハウジング下の電装部品（黒い箱）には、水をかけないように注意して下さい。

洗浄個所

(1) ホッパ

(2) 送りローラ

(3) ロータハウジング

(4) クローラ

注 意 2

エンジンまわり電装品は水洗いせず、圧縮空気やブラシ・布などでほこり・木屑・泥土等を落として下さい。

３．水洗い後は水分を良く乾燥させて、各回転・しゅう動部に油をたっぷり注油して下さい。

４．３．で注油できなかった部分に、同様に油をたっぷり注油して下さい。

長期保管

１．各部をよく洗った後、機械の全注油、給脂（グリース）個所に、注油・給脂をして下さい。
２．燃料タンクの燃料を次の手順で抜き取っておいて下さい。
（１）燃料コックを「閉」位置にして下さい。
（２）ストレーナカップを左にまわして外し、ストレーナカップ内の燃料とゴミを取り除いて下さい。
（３）燃料コックの下に、受皿等を当ててから燃料コックを「開」位置にしてタンク内の燃料を抜いて下さい。
（４）ストレーナカップを元に戻して下さい。
３．エンジンを始動し、燃料が切れてエンジンが停止するまで運転します。
４．エンジンオイルは新しいオイルと交換しておいて下さい。
５．エアクリーナは、エレメントを外し清掃後、再度取り付けて下さい。
６．１ケ月に１回程度エンジンをかけて本機を動かし、エンジン・油圧系に潤滑油が行き渡るようにするとともに、補充電をして下さい。
７．各部を油布で清掃し、カバーをかけて下さい。格納は湿気、ほこりの少ない所にして下さい。屋外に放置する場合は、シートを被せて下さい。

注 意

寒冷地では、使用後必ず本機に付着した泥や異物を取り除いて、コンクリートか固い乾燥した路面、又は角材の上に駐車して下さい。付着物が凍結して故障の原因となります。
又、凍結して運転不可能になった場合には無理に動かそうとせずに凍結箇所をお湯で溶かすか､凍結が溶けるまで待って下さい。（無理に動かした場合の事故については責任を負いかねますので特にご注意下さい。）

付属工具一覧

機械を使用する前に、付属工具が揃っている事を確認して下さい。

No	工 具 名	品番･サイズ	数量
1	両口スパナ	8×10	1
2	〃	10×13	1
3	〃	13×17	1
4	〃	17×19	1
5	両口スパナ	22×24	1
6	メガネレンチ	17×19	1
7	六角棒スパナ	3mm	1
8	〃	4mm	1
9	〃	5mm	1
10	〃	8mm	1
11	ナイフ調整ゲージ（150mmｽｹｰﾙ付）	11106990001	1
12	エンジン工具（プラグレンチ）	20B-90301-H0	1

消 耗 部 品 一 欄 表

品　　名	品　　番	数／台	交換目安時間 備　　考
作　業　機　関　係			
塩ビ管用 チッパーナイフ	２１１０６２２０００Ｅ	２	片面２５時間
受　　刃	１１１２６３２０００００	１	片面７５時間
ロータベルト	Ａ８１３Ｖ０３０８００	１	不具合があれば交換
走行ベルト	Ａ８１ＳＡ０１００３８	１	不具合があれば交換
パワーパックベルト	Ａ８１ＳＢ０１００４３	１	不具合があれば交換
ローター軸受け	Ａ７０２０２０６０００	２	５００時間
送りローラー軸受け	Ａ７０５５２０５０００	１	１０００時間
エ ン ジ ン 関 係			
クリーナエレメント	２６７－３２６０３－０７	１	２００時間
燃料ホース	Ｘ８５－１０６１４－９１ ０８５－１０６２２－０１	１ １	２年毎に交換
スパークプラグ	０６５－０１４０１－５０	１	５００時間 (BR6HS)
油　圧　関　係			
油圧ホース(上)	１１１２３５１００００００	１	２年毎に交換
油圧ホース(下)	１１１２３５２００００００	１	２年毎に交換
バッテリ・電 気 関 係			
バッテリ	１１１２９６１００００００	１	２年毎に交換 (40B19L)
ヒューズ　Ａ	Ａ９９０５２１２５１０	１	全体（10A）
ヒューズ　Ｂ	Ａ９９０５２１２５０１	１	ﾊﾞﾙﾌﾞｺﾝﾄﾛｰﾙ 基板（1A）

※オイルは、オイル交換の項をご覧下さい。

こんなトラブルが起ったら

エンジンを止めてから点検してください

	こんな確認をして	こう処置する
エンジンがかからないとき	(1)燃料が切れていないか	燃料の補給をする
	(2)燃料が燃焼室に吸込まれているか	キャブレタ、燃料ストレーナを清掃する
	(3)エンジンの始動手順が間違っていないか	正しい始動手順でエンジンをかける
	(4)燃料に水が入っていないか	燃料ストレーナに水が溜まっていれば、キャブレタや燃料ストレーナを外して水抜き、洗浄を行う
	(5)長期保管時の古い燃料が残っていないか	燃料タンク・ストレーナ・キャブレタ内の燃料を抜き、新しい燃料と交換する。特にキャブレタは、メーンジェットの穴が詰まるので念入りに掃除をする
	(6)点火プラグが悪くなっていないか	点火プラグを外し、濡れていれば、火であぶるか、乾いた布などで良く乾燥させる。 点火プラグの火花間隔（0.6～0.7 ㎜）を調整し、それでもかからない場合は新しい点火プラグと交換する 注意 交換や調整後は、点火プラグを元の位置に締付け、プラグキャップを確実に差し込むこと
エンジンの力がないとき	(1) エアクリーナにゴミがたまっていないか	エアクリーナエレメントのゴミを除去し、きれいに清掃する
	(2) ブロワハウジングの吸気口にゴミがたまっていないか	ゴミを除去し、きれいに清掃する
	(3)エンジンオイルが不足していないか	エンジンオイルを補給する。また、オイルが古くなっている場合、新しいオイルと交換する
	(4)エンジンの回転は上がるか	スロットルレバーの遊びを減らす。スロットルワイヤのズレを直す
	(5)エンジンの圧縮はあるか	点火プラグ及びシリンダヘッドボルトを締め付ける ピストンリング等の磨耗も考えられるので購入先に相談する
	材料が噛みこんでエンジンが停止したとき	エンジンキースイッチを『OFF』位置にし、噛み込んだロータを解除して下さい（Ｐ２８参照）
各部に振動が多いとき	(1)エンジンが振れていないか	エンジン取付ボルトを強く締め直す
	(2)チッパーナイフ外れていないか 取付ボルトが外れたり緩んでいないか	チッパーナイフを正しく付け直す。 取付ボルトを強く締め直す
	(3)ロータハウジングが振れていないか	ロータハウジング取付ボルトを強く締め直す
	(4)ロータ軸受けが破損していないか	ロータ軸受けを交換する

送り制御・チェック項目

−送りローラが回転しない−

＜正転しない時＞

	箇　所	原　因	処　置	ﾁｪｯｸ	備　考
1	正送り非常停止スイッチ	押されている	正送り非常停止スイッチを解除する		右に回す
2	エンジン回転	低い	スロットルレバーを[高]にまわす		
3	エンジン回転	低い（ｽﾛｯﾄﾙﾜｲﾔのｽﾞﾚ）	スロットルワイヤのズレをなおす		
4	送りスイッチ（前方）	故障している	送りSWを交換する		
5	配線コード	断線している	配線コードを結線する		ｺﾝﾄﾛｰﾙBOX−電磁弁
6	電磁弁	故障している	電磁弁を交換する		
7	コントロール基板	故障している	コントロール基板を交換する		ｺﾝﾄﾛｰﾙBOX内

＜逆転しない時＞

	箇　所	原　因	処　置	ﾁｪｯｸ	備　考
1	送りスイッチ（後方）	故障している	送りスイッチを交換する		
2	配線コード	断線している	配線コードを結線する		ｺﾝﾄﾛｰﾙBOX−電磁弁
3	電磁弁（ﾊﾟﾜｰﾊﾟｯｸ）	故障している	電磁弁を交換する		

＜どちらも動かない時＞

	箇　所	原　因	処　置	ﾁｪｯｸ	備　考
1	パワーパックベルト	切れている	パワーパックベルトを交換する		
2	パワーパックベルト張り	緩んでいる	パワーパックベルトを張り直す		
3	パワーパック油量	不足している	作動油を補給する		
4	パワーパックのアース	アース不良	塗装・サビの除去		
5	送りローラ	物がひっかかっている	ひっかかっている物を除去する		
6	配線コード	断線している	配線コードを結線する		キーSW−LS6

<自動制御が効かない（材料は送り込むが、自動停止せずエンジンが止まる>

	箇　所	原　因	処　置	ﾁｪｯｸ	備　考
1	ヒューズ（1A）	切れている	ヒューズ（1A）を交換する		
2	配線コード	断線している	配線コードを結線する		キーSW−基板
3	ｺﾝﾄﾛｰﾙ基板	故障している	ｺﾝﾄﾛｰﾙ基板を交換する		

<小枝モードは正常だが、標準モードで正送りしない>

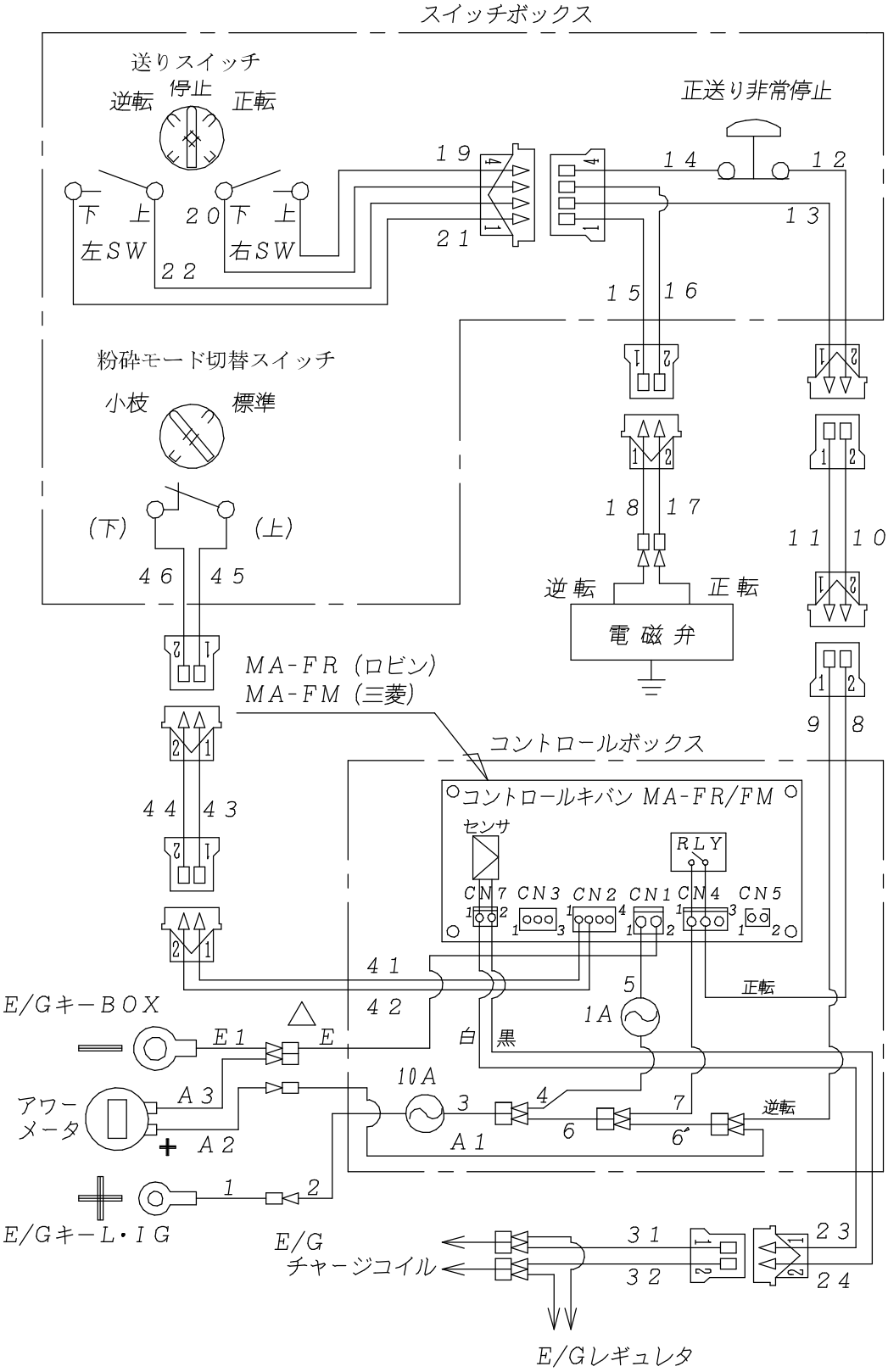
	箇　所	原　因	処　置	ﾁｪｯｸ	備　考
1	エンジン回転	低い	スロットルレバーを「高」に回す		
2	コントロール基板				

<標準モードは正常だが小枝モードで正送りしない(小枝モードに切り替わらない>

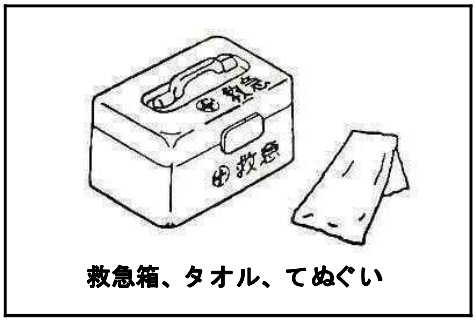
	箇　所	原　因	処　置	ﾁｪｯｸ	備　考
1	粉砕モード切替スイッチ	断線・故障	修理する・交換する		
2	コントロール基板				

<小枝モードは正常だが、標準モード切替でも小枝モードの制御である>

	箇　所	原　因	処　置	ﾁｪｯｸ	備　考
1	粉砕モード切替スイッチ	断線・故障	修理する・交換する		


スイッチボックス
送りスイッチ
逆転
停止
正転
正送り非常停止
19
14
12
下
上
20
下
上
13
左SW
右SW
21
22
15
16
粉砕モード切替スイッチ
小枝
標準
(下)
(上)
18
17
11
10
46
45
逆転
正転
電磁弁
MA-FR (ロビン)
MA-FM (三菱)
9
8
コントロールボックス
44
43
コントロールキバン MA-FR/FM
センサ
RLY
CN7
CN3
CN2
CN1
CN4
CN5
41
42
5
正転
E/GキーBOX
E1
E
白
黒
1A
10A
アワーメータ
A3
A2
3
4
7
逆転
6
6'
A1
1
2
E/GキーL・IG
E/G
チャージコイル
31
32
23
24
E/Gレギュレタ

万一の事故に備えて



●作業の前に

・万一の事故に備え、電話機もそばの目につきやすい場所に、医療機関、消防署（救急車）の電話番号を明確にしておいてください。
特に消防署への連絡の場合、救急車のための目標地点（住所、目標となる建造物など）も明確にしておくと、的確な連絡に役立ちます。

・作業する場合、どこで作業を行っているかが他の人にもわかるような方法（黒板に作業現場をメモするなど）を講じてください。負傷し動けなくなり帰れない場合の対処として有効です。

・作業現場には、呼子（笛）を持っていってください。

●発火に対する備え

危　　険

万一、エンジンから、発火または発煙したら、ただちに、機械を停止させ、キーをＯＦＦ位置にし、機械より降りて、まず消火すること。この場合、自分の身体の防御にも充分注意すること。

・エンジンから発火または排気口以外から発煙した場合、まず、機械を停止させ、キーをＯＦＦ位置にし機械より降りて、消火してください。

・自分の身体を、火災その他の傷害から守るよう注意してください。

・草、木などに類焼しないよう注意してください

・スコップで砂などをかけるか、または油火災消火用の消火器で消火してください。

●ケガへの備え

・万一のケガへの備えとして、救急用品としては、応急手当用品の入った救急箱を用意してください。
出血をともなうケガについては、止血用に汗ふき用のタオルや、てぬぐいなども有効ですので、常時余分に作業現場へ携帯することをおすすめします。

●応急手当

・応急手当については、地域の消防署や消防組織（消防団など）で知識、技能の普及につとめていますので、それらの講習、訓練を受け、基本的な知識を習得されることをおすすめします。

お 客 様 へ

ご使用の機械についてわからないことや故障が生じたときは、

下記の点を明確にして、お買い求め先へお問合わせ下さい。

●ご使用機の型式名と機体番号は？購入年月日は？

型　　式	GS122GE
機 体 番 号	
購入年月日	年　月　日

●ご使用状況は……？
（どんな作業のとき等）

●トラブルが発生したときの状況を、できるだけ詳しくお教え下さい。

●ご不明なことやお気付きのことがございましたら、販売店にご相談下さい。

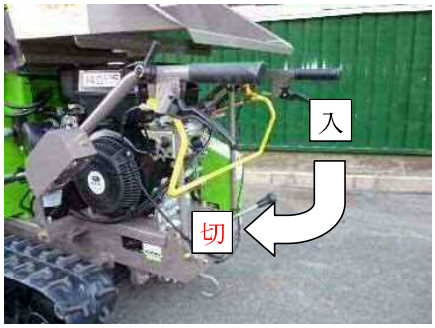
販売店名

担 当 者

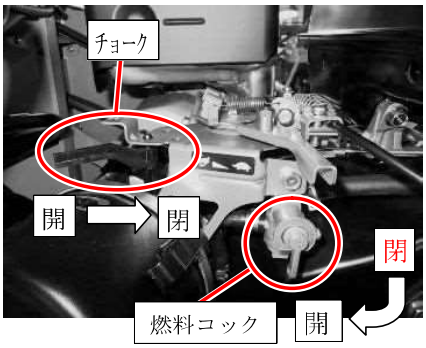
ＴＥＬ　　（　　）

GS122GE　使 用 手 順 書

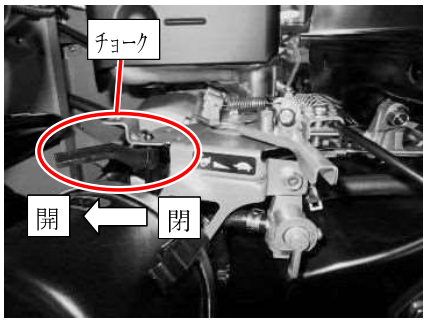
① 走行クラッチレバーを「切」位置にします。(駐車ブレーキも同時に入ります。)



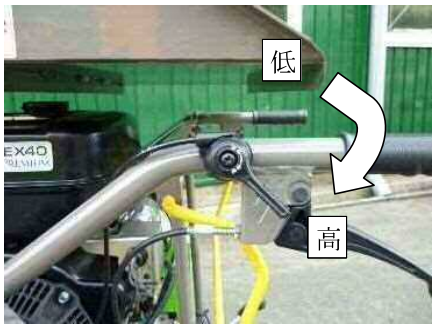
② シフトレバーを「N」の位置にし、燃料コックを「開」、チョークを「閉」方向にします。



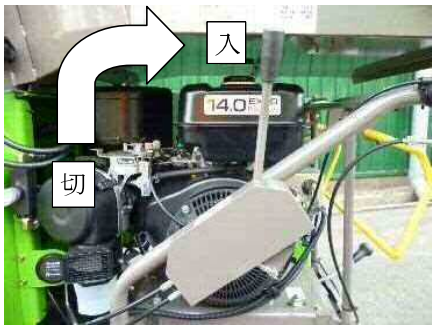
③ エンジンスイッチを「ON」方向に回しエンジンをかけます。チョークを「開」方向に戻して下さい。



④ スロットルレバーを「低」から徐々に「高」位置にします。(フルスロットルにします)



⑤ ロータークラッチレバーを「切」からゆっくりと5秒ほどかけて「入」方向へ上げます。



⑥ 投入口上部の粉砕モードを「標準」へ、送りスイッチを「正送り」へすると、

粉砕作業が出来ます。

⑦ホッパーにふたをします。

⑧排出方向に気をつけ作業位置を決めます。

⑨粉砕物を投入し、速やかにふたを閉めて下さい。
※粉砕できる投入物の長さは、50cmまでです。
それより長い場合は短く切ってから投入して下さい。

【注意】
作業の際は必ず**保護メガネ、ヘルメット、保護手袋**着用で、安全を確認の上
作業をお願いします。飛散したチップにより大きな怪我につながる恐れがあります。

2013. 5. 9

始 業 点 検 表

型式

GS122GE

機体番号

お客様名	フリガナ

販売店

	日付 / 点検項目	／	／	／	／	／	／	／	／	／
1	エアクリーナの清掃・点検 267-32603-07									
2	エンジンオイルの量・汚れ OIL002 （SE級以上）									
3	作動油の量・汚れ OIL001 (ISO VG46相当粘度)									
4	チッパーナイフの欠け・磨耗 21106220000E									
5	受刃の欠け・磨耗 11126320000									
6	ナイフ、受刃の増締め									
7	各部のグリースアップ （グリースはリチューム系）									
8	各部への給油・注油									
9	エンジン、クローラの清掃									
10	ベルトの磨耗、亀裂 ※3　参照									
12	使用時間合計									

※1　エンジンオイルは初回20時間、以降100時間毎に交換して下さい。　※2　ﾐｯｼｮﾝｵｲﾙ　#90

※3　走行ﾍﾞﾙﾄA81SA010038（SA-38）　ﾊﾟﾜｰﾊﾟｯｸﾍﾞﾙﾄA81SB010043（SB-43）

ﾛｰﾀｰﾍﾞﾙﾄA813V030800（3V-3R-800）

株式会社　大　　橋
佐賀県神埼市千代田町崎村４０１
TEL：0952-44-3135
FAX：0952-44-3137
Ｅ-mail：eco@ohashi-inc.com
http：//www.ohashi-inc.com/